OWNER'S MANUAL

DVDホームシアター・サウンドシステム

LS-PRO

この度はLS-PROシステムをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

LS-PROシステム取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

目　次

安全上の留意項目 ……2
スピーカーの防磁について ……4
LS-PROシステムのお手入れについて ……4
特長 ……5
LS-PROシステムが対応しているソースと機器について …6
ディスクについて ……6
著作権について ……6
開梱時のご注意 ……7
LS-PROシステムの設置位置を選ぶ ……8
ケーブルについて ……12
アクースティマスとスピーカーを接続する ……13
外部の機器をLS-PROシステムに接続する ……16
各部の名称……18
●リモコン ……18
●前面 ……22
●背面 ……24
●表示部 ……26
アンテナを接続する ……28
リモコンの使い方……29
電源のON/OFFのしかた……30
音量調節のしかた……30
時刻の合わせ方……31
タイマーとスリープについて……31
スピーカーモードについて……32
フィルムEQについて ……33
DRC（ダイナミックレンジコンプレッション）について ……33
ディスクの取り扱いについて……34
ディスクの再生……35
プレイモードについて……37
ラジオの聞き方……38
MP3ファイルの再生 ……39
外部の機器を聴く ……40
ヘッドホンで楽しむとき……40
ステータスバー画面について……41
システム設定について ……42
（TV画面設定／デジタル出力／視聴規制／TV方式選択／
OSDアイコン／オートパワーオフ／English)
LS-PROシステムの音響調整……44
故障かな?と思ったら ……45
仕様……47
故障の場合のお問い合わせ先 ……47
保証……47

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠警告

通風孔のある機器のみ

●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。

●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

⚠注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源コード、スピーカーケーブルを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ と － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

⚠警告		●スピーカーケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーケーブルを傷つけて火災の原因となります。
		●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
		●スピーカーケーブルを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災の原因となります。
		●スピーカーケーブルはを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
		●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
		●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

⚠注意		●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
		●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
		●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
		●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。 他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

音のエチケット

●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

あなたが放送やCD、テープ、又はビデオディスクや市販のソフトから録音や録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

スピーカーの防磁について

※サテライトスピーカーの防磁について

サテライトスピーカーは、キャンセリング・マグネット方式とシールドカンを併用した低磁束漏洩型になっていますのでテレビやモニターなどに近づけても、画面に色ムラなど影響が生じにくくなっていますが、まれに画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

※アクースティマスの防磁について

アクースティマス内部のスピーカーは、防磁処理が施されていませんので、テレビやモニターなどに近づけないでください。近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分（約60cm以上）離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

LS-PROシステムのお手入れについて

キャビネットの汚れを落とす場合

●汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。
から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

●汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

●アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

特　長

●あらゆるソース（音源）を独立5チャンネルで再生

内蔵するドルビーデジタル・デコーダーとボーズオリジナルデジタル・プロセッサで構成されるデジタル処理技術-ボーズデジタル“ BD ”。この技術によって、ソースがドルビーデジタル(AC-3)信号で記録されているものはもちろんのこと、ドルビープロロジック、ステレオ、モノラル信号までも、その信号に含まれている微量な音場信号を解析して、5本のスピーカーにそれぞれ独立した音声信号を送ります。

●低域の位相干渉を排し、濁りのない低音再生を実現した、“ BDベースパワーサミング回路 ”と“ デジタル・アクースティマス ”

同じ部屋の中に多数のウーファーがあると、それぞれからの低音の干渉による悪影響が起きてしまいます。ところが、5チャンネルまたは6チャンネル分の低域信号を単純にひとつに合成しようとすると、信号の位相が微妙にずれていたり特定のチャンネル同士では反転している場合あり、非常に困難です。その問題を解決して、位相に関係なくエネルギーを合成するのが、BDベースパワーサミングテクノロジーです。そして、その合成された低域エネルギーを効率良く歪のない音響エネルギーとして放出するのが、6チャンネル分のパワーアンプを内蔵し、3チャンバーを持つデジタル・アクースティマスです。これらの技術により、たった一台のデジタル・アクースティマスからパワフルで、ゆとりのある低音再生を実現しました。

●深夜や大きな音を出せない時でもバランスよく再生ができるBDダイナミックレンジコンプレッション（DRC）回路搭載

映画に録音されている音声の最大音量時と最小音量時の差を、再生時の音量に合わせて自動的に圧縮。深夜や小さな音量で再生している時でも微細な背景などの音から、爆発音や衝突音などの大迫力の効果音までをバランスよく、そして、一番大切なセリフは常に明瞭に再生することを可能にしました。

●映画館の音響特性を家庭で再現する新フィルムEQ装備

映画のサウンドトラックは、低音を10dB圧縮して録音されています。そのため、LS-PROシステムには、この圧縮された分を自動的に補正するフィルムEQ(イコライザー）を装備しています。ところが、フィルムEQを働かせたままで映画以外のソースを再生すると音のバランスが不自然になってしまいます。そこで、LS-PROシステムの新フィルムEQはCD、FM、AMを聞くときには働かないようになっています。さらに新フィルムEQには、映画館のような大きな部屋の音響特性を家庭の部屋でも再現できるように補正する機能も追加されました。

●AVセレクター機能やDVDを搭載した多機能な新開発ミュージックセンター

入力はVTR２系統、SAT１系統、AUX／MD、デジタル入力３系統（同軸１、光２）を、出力はVIDEO、MONITOR、MD REC、DVDコンポーネント映像出力、デジタル出力２系統（同軸１、光１）を装備。さらにVIDEO1とMONITORにはS端子も装備しており、CS/BSチューナーやVTRデッキ、MDデッキ、ゲーム機など様々なソースを接続して楽しむことが可能です。また、フロントローディングのDVDプレーヤーは、DVD、音楽CDはもちろん、CD-R/CD-RW/MP-3フォーマットのCDの演奏が楽しめ、業務用としてホテルの小宴会場やオフィスのAV視聴室などでも十分使用可能な能力を備えています。

●プロフェッショナルな雰囲気を漂わせる堅牢な仕上げとデザイン

プロントパネルは厚みをもたせた堅牢な筐体の前面にFLディスプレイを配し、白色のLEDバックライトでボーズロゴが暗闇でも光るデザインになっています。

●使いやすさを追求したユーザーフレンドリー設計

DVD操作に関してはスクリーン上への日本語表記を採用し、よりわかりやすい操作性を実現。また、リモコンも各社テレビモニターのON/OFFとテレビの入力切替を可能にするとともに、照明をおとしてホームシアターを楽しむ場合でも操作しやすい照明付きボタンキーを採用しました。

●臨場感あふれるシネマサウンドや豊かな音楽再生を提供するボーズ独自のテクノロジーを満載

モノラルでもステレオでもあらゆるソースをデジタル5.1チャンネルで楽しめるボーズデジタル（BD）をはじめ、LS-12 II と同一のデコーダーテクノロジーを搭載。スピーカー間の位相干渉をなくしクリアな重低音再生を実現するベースパワーサミング回路、ボリュームに連動して音量差を圧縮して自動調整を行うDRC回路、どんな音量時でも最適な周波数バランスを提供するP.A.P.回路、そして映画や音楽などソフトに応じた最適なレベル調整を行うフィルムEQ回路などボーズ独自の技術により、あらゆるソフト、使用状況でもベストなボーズサウンドの提供を可能にしています。

LS-PROシステムが対応しているソースと機器について

●デジタル・オーディオビットストリーム信号に対応しています。
ドルビーデジタル、DOLBY DIGITAL、Dolby Digital、または、PCMと表示されているDVDソフトが使用できます。ただし、DTS、MPEG-2のデジタルビットストリーム信号には対応していません。これらのDVDソフトを使用する場合は、DVDプレーヤーからのアナログ信号をBDで再生します。

●サラウンドで録音されているソースに対応しています。
ビデオソフト、オーディオテープ、CD/LDソフトなどで、Dolby Surround、または、DOLBY SURROUND と表示されているものは、5チャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

●ステレオ放送やステレオ録音されているソースに対応しています。
テレビの地上波や衛星放送、FM放送、CD、LD、LP、コンパクトカセット、ゲームソフトその他ステレオ方式で再生できるソフト全てに対応しています。ボーズデジタルにより5チャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

●モノラルソースに対応しています。
モノラル録音されているソースでもボーズデジタルのシミュレーテッド・サラウンドモードで、5チャンネル再生をお楽しみいただけます。

●アナログオーディオ信号が出力できるあらゆる機器に対応しています。
ステレオテレビ、ビデオカセットレコーダー、衛星チューナー、ケーブルテレビチューナー、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、ビデオゲーム機などアナログオーディオ信号が出力できる機器全てに対応しています。アナログ信号をLS-PROシステムのミュージックセンターに接続すればボーズデジタルにより5チャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

●このシステムはdts音声のデジタル信号に対応していません。
dtsで録音されているディスクを再生する場合は、システム設定のデジタル出力でdtsの項目を「切」にしてご使用ください。外部のAVアンプとスピーカーシステムを使用するときだけ「ビットストリーム」にしてください。

ディスクについて

◆再生できるディスク

名称	ロゴマーク	映像方式
DVDビデオ	DVD VIDEO DVD VIDEO	NTSC PAL
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	

◆DVDビデオディスク

発売地域ごとに割り当てられたリージョン番号が付与されています。
・本機のリージョン番号は「2」です。
・「2」（または 「2」を含むもの ）もしくは、「ALL」が表示されたDVDビデオが再生できます。

など

◆CD-R/CD-RWディスク

本機は、CD-Aフォーマットまたは、録音終了時にファイナライズ※された音楽用 CD-RとCD-RW再生に対応しています。ただし、記録状態によっては再生できない場合があります。また、MP3データーの記録されているCD-R/CD-RWを再生できます。

※音楽用CD-R/CD-RWの再生対応機器で再生できるように処理すること。

注意：DVDビデオの中には、ソフトの制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。ディスクのジャケットなどもご覧ください。

著作権について

ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。
本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国許可及びその他の知的財産権によって保護されています。
この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、またマクロビジョン社の許可がない限り家庭用及びその他の一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。
Dolby、ドルビー、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
「DTS」および「DTSデジタルサウンド」はDTS社の登録商標です。
著作権1996年、2000年DTS社。不許複製。

開梱時のご注意

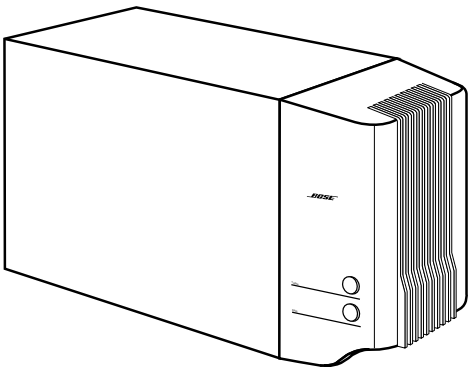
◆ 付属品を確認してください ◆

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。また、箱や梱包材は、後日の修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

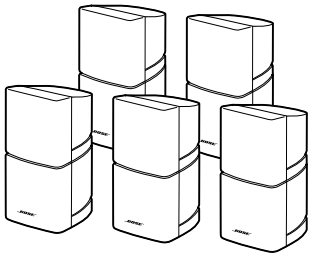
⚠警告

●LS-PROシステムのアクースティマスは、約14kgあります。移動する際に、腰を痛めたりしないように十分注意して持ち上げてください。

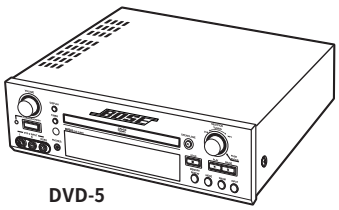
●窒息する危険がないように、製品を包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。



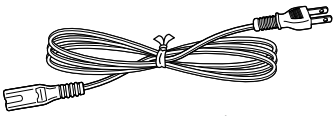
アクースティマス（非防磁型）



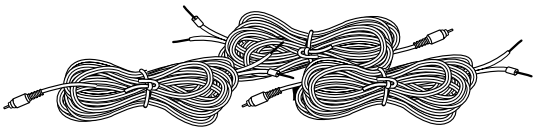
サテライトスピーカー　（防磁型）×5



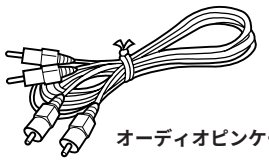
DVD-5



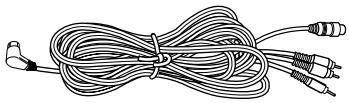
DVD-5用ACケーブル



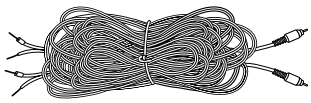
フロントスピーカー用ケーブル　6m×3



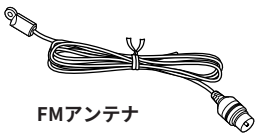
オーディオピンケーブル



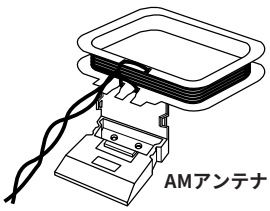
DVD-5･アクースティマス
接続ケーブル 9m



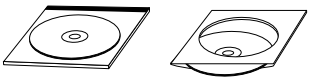
サラウンドスピーカー用ケーブル　15m



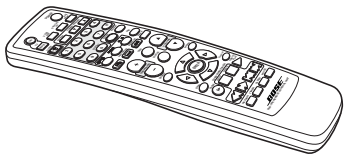
FMアンテナ



AMアンテナ



CD×2



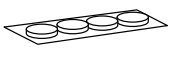
リモートコントローラー（リモコン）

アクースティマス用ACケーブル

映像用ピンケーブル（黄）2m×1

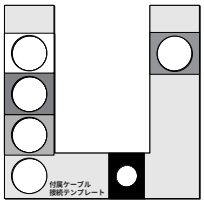
デジタル信号用
ピンケーブル（オレンジ）1m×1

リモコン用乾電池（単4）×2

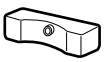


センタースピーカー用ゴム足

アクースティマス用ゴム足



テンプレート

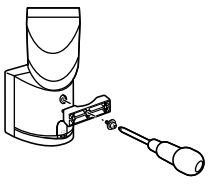


ブラケット用
アダプター×5

ブラケット用アダプタービス×5

付属のブラケットアダプターを使用することで、101シリーズ、100シリーズ用のスピーカー取付金具（ただし一部の金具を除く、平成14年2月現在）もご使用になれます。

図のようにサテライトスピーカーにアダプターを取り付けてください。



※対応金具についてのお問い合わせは販売店もしくはボーズ株式会社（47ページ参照）までご連絡ください。

LS-PROシステムの設置位置を選ぶ

◆ LS-PROシステムの設置位置を選ぶ ◆

下記ガイドラインに従ってスピーカーを設置すると、反射音と直接音との組合せにより、映画館などで感じる迫力と臨場感が得られます。サテライトスピーカーの位置と向きをいろいろ試してみて、最も快いと感じる方向を探しながら設置してください。サラウンド用のサテライトスピーカーの向きは、どこから音が出ているのかがはっきりとは分からないように向きを調整してください。サラウンド用のサテライトスピーカーはリスナーに直接向けないように設置する方がよい結果が得られます。スピーカーの音量バランスの調整および室内音響効果についてさらにお知りになりたい場合は「LS-PROシステムの音響調整」（44ページ）をご参照ください。

◆ スピーカーの設置位置 ◆

下記の手順に従って、映画館のような臨場感が得られるようにLS-PROシステムを設置します。

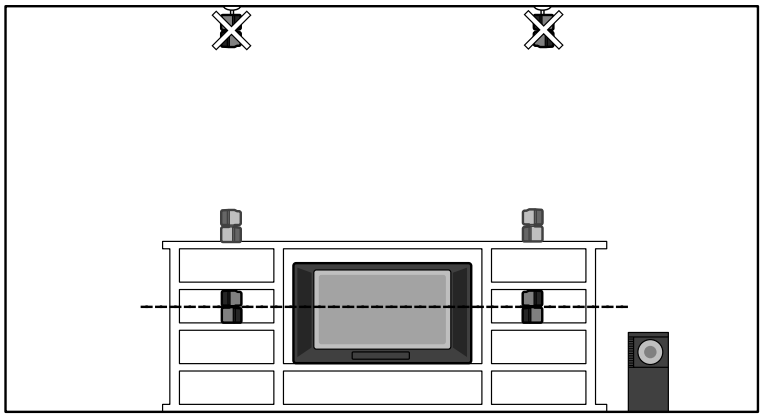
● フロントLch（左側）とフロントRch（右側）サテライトスピーカー

1. 音の広がりの感じが視覚のイメージに近くなるように、左右のフロントスピーカーから出る音声はテレビやスクリーンなどの画面の両端から聞こえるように設置します。フロントスピーカー用のケーブルの長さは約6mありますので、アクースティマスからの距離はケーブルの長さの範囲で設置してください。

・画面の両脇にスピーカーどうしを約2～5m離すか、テレビの端から10～20cm離れるように設置します。

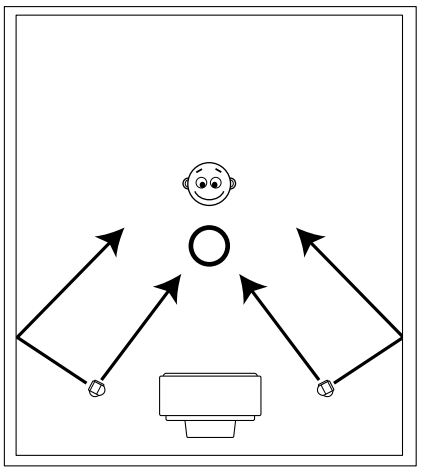
・音像と映像のバランスを取るために、画面中央と同じ高さにフロントスピーカーを置くことをおすすめします。
画面の上端の高さに置くこともできます。

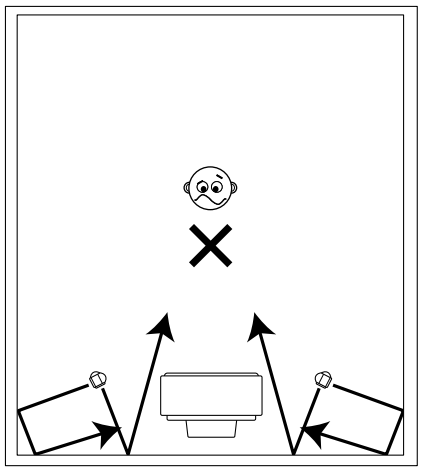
※天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に高さは違えないほうがよいでしょう。



2. サテライトスピーカーの上下2個あるスピーカーのうち1個のスピーカーを前面に向けてください。もう一方のスピーカーは、壁の方向あるいは前方以外に向けて反射音を作り出します。

注:サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型（キャンセリング・マグネット＋シールドカン方式）を採用しています。





● センター（前方中央）サテライトスピーカー

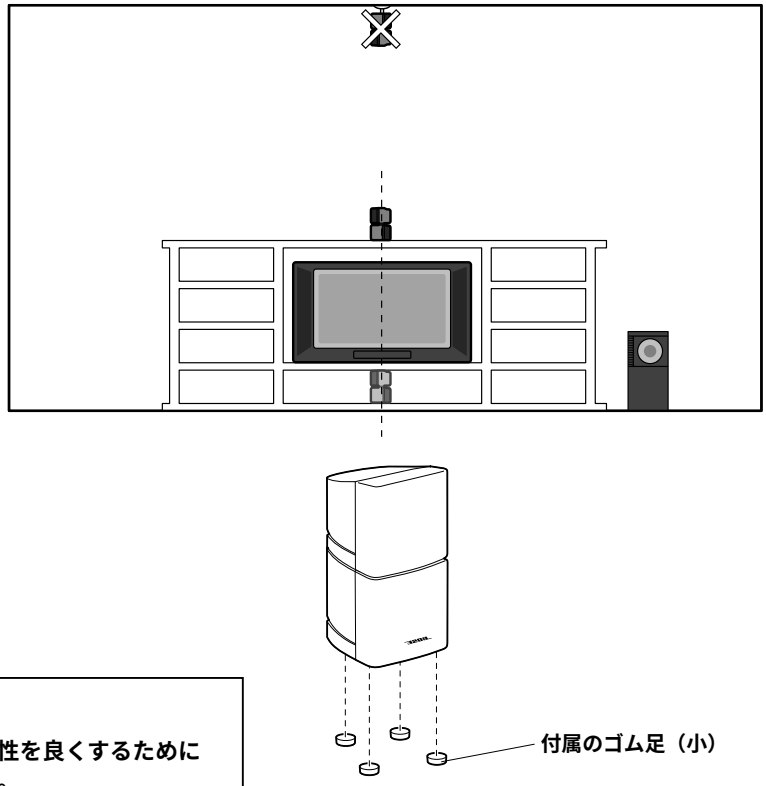
1. センタースピーカーから出る音声は、画面の中央から聞こえるように設置します。センタースピーカー用のケーブルの長さは約6mありますのでアクースティマスからの距離は、ケーブルの長さの範囲で設置してください。

・サテライトスピーカー１台をセンタースピーカーとしてテレビの上または下に置きます。下に置く場合はサテライトスピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

・センタースピーカーを画面の上下にできるだけ近い位置に置くと、会話が画面上から聞こえやすくなります。

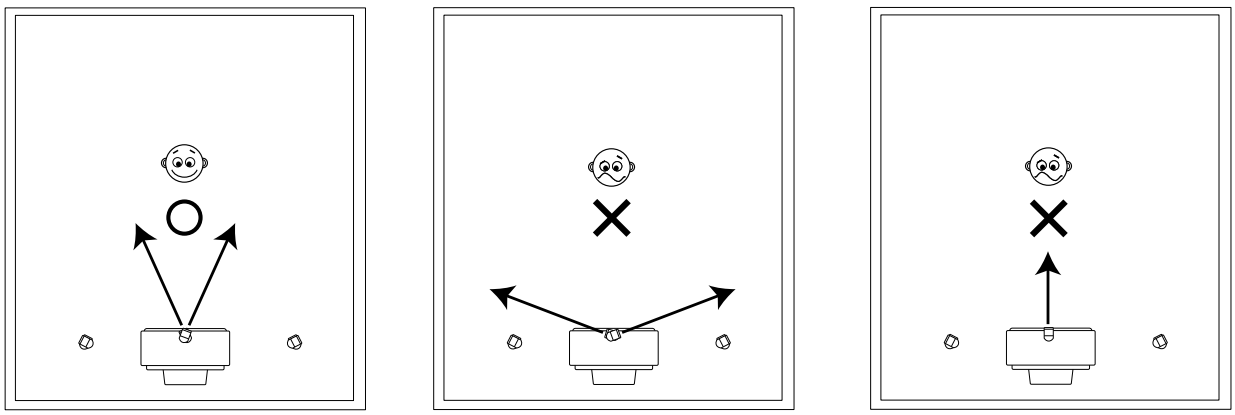
※天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に高さは違えないほうがよいでしょう。

※テレビの上に置く場合は、なるべく画面の一番手前になるように置いてください（テレビの奥の方には置かないでください）。



⚠ 注意
テレビの上にセンタースピーカーを配置する場合、安定性を良くするためにセンタースピーカー用ゴム足（小）を使用してください。

2. サテライトスピーカーの上下2個のスピーカー各々を中心線からわずかに左右に向けて、広い範囲に直接音を作り出します。

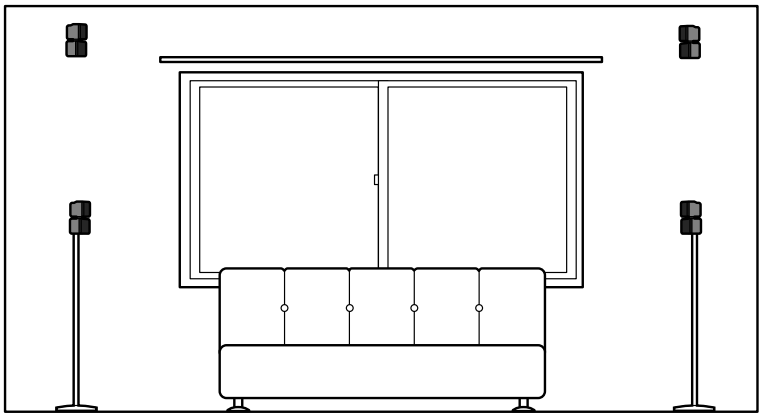


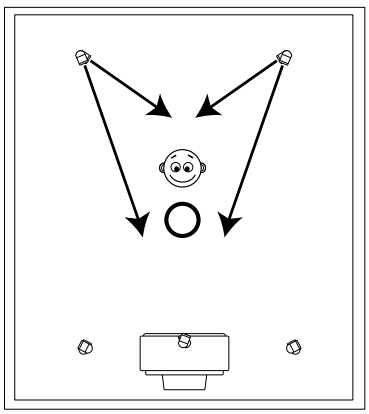
注:スピーカーを書棚などの家具に置く場合には、必ず各々のスピーカーを書棚の前面部に設置してください。周囲を取り囲まれた空間にスピーカーを設置しますと、音質が変化します。書棚に本などを入れる場合、その量によって音質が変化しますのでご注意ください。

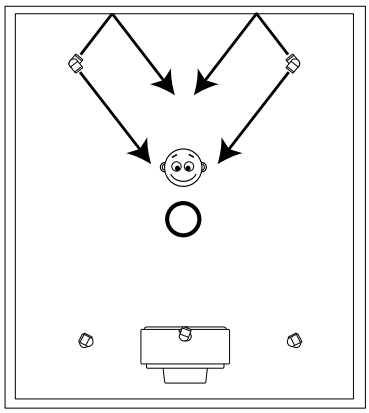
● サラウンドLch（左側）とサラウンドRch（右側）サテライトスピーカー

サラウンド（リア）スピーカーは、なるべく、室内の半分よりうしろに設置してください。高さは、耳の高さかそれより高い位置に取り付けます。サラウンドスピーカー用のケーブルは約15mありますので、アクースティマスからの距離はケーブルの長さの範囲で設置してください。

サラウンドの音声は、リスナーを前後ではさむように向けます。



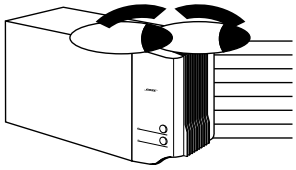


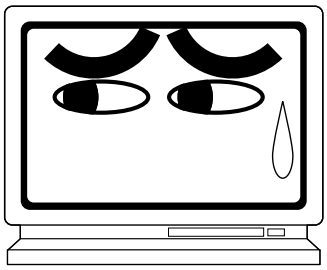


◆ アクースティマス ◆

下記の手順に従って、アクースティマスの設置位置を選んでください。

注：アクースティマス内部のスピーカーは防磁されていません。テレビ画面への干渉を避けるために、アクースティマスはテレビから少なくとも60cm以上離してください。

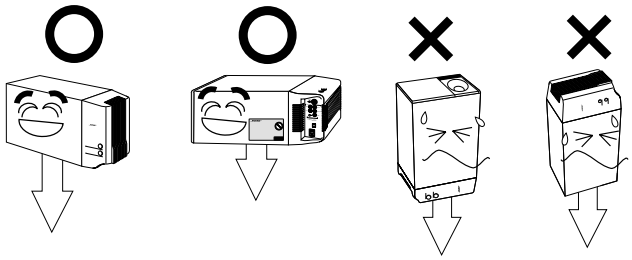




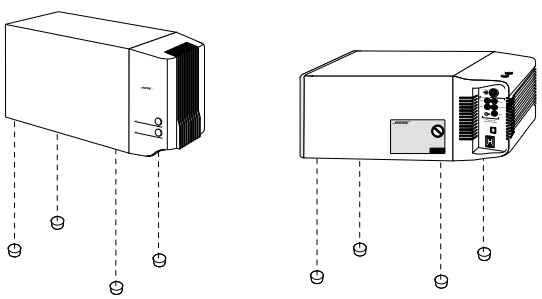
1. フロントスピーカーを設置した部屋の端に近い壁か、テレビのうしろの壁にアクースティマスを設置します。その際、入力用スピーカーケーブル、各スピーカーケーブルおよび、ACケーブルが届くことを確認してください。また、アクースティマスは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがアクースティマスの換気開口部を塞がないように十分気を付けてください。

2. アクースティマスの置き方を決めます。アクースティマスには、アンプが内蔵されていますので、適切なアンプの冷却を行うために、コネクター部を下にして設置するか、調整用のつまみを上にして設置してください。

注:側面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してアクースティマスのスリットの部分を塞がないでください。

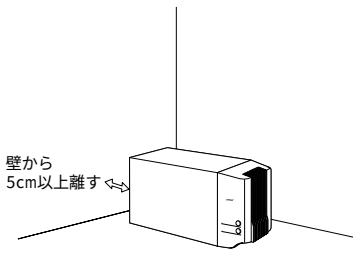


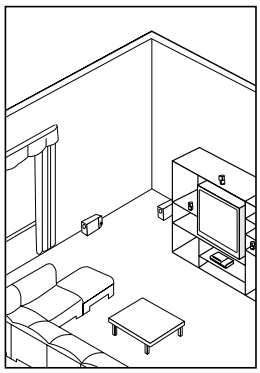
3. アクースティマスの置き方が決まったら、底面の4隅の付近に付属のアクースティマス用ゴム足を貼り付けてください。アクースティマスの安定が良くなり、傷などが付きにくくなります。



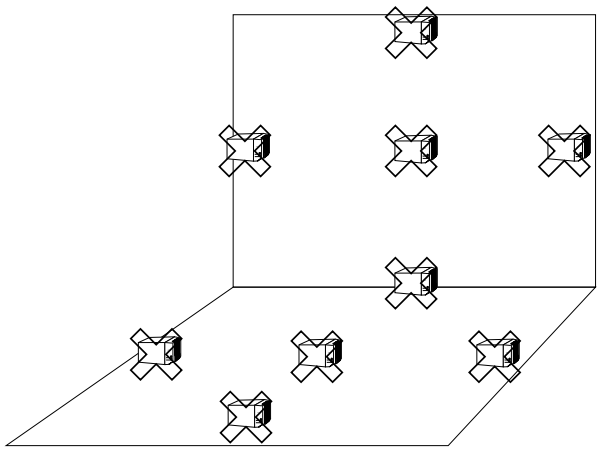
4. ポート（丸い開口部）が塞がったり低音が出過ぎないように、ポートを室内、あるいは壁に沿うように向けます。

ポートを壁側にする場合は５cm以上離すようにしてください。

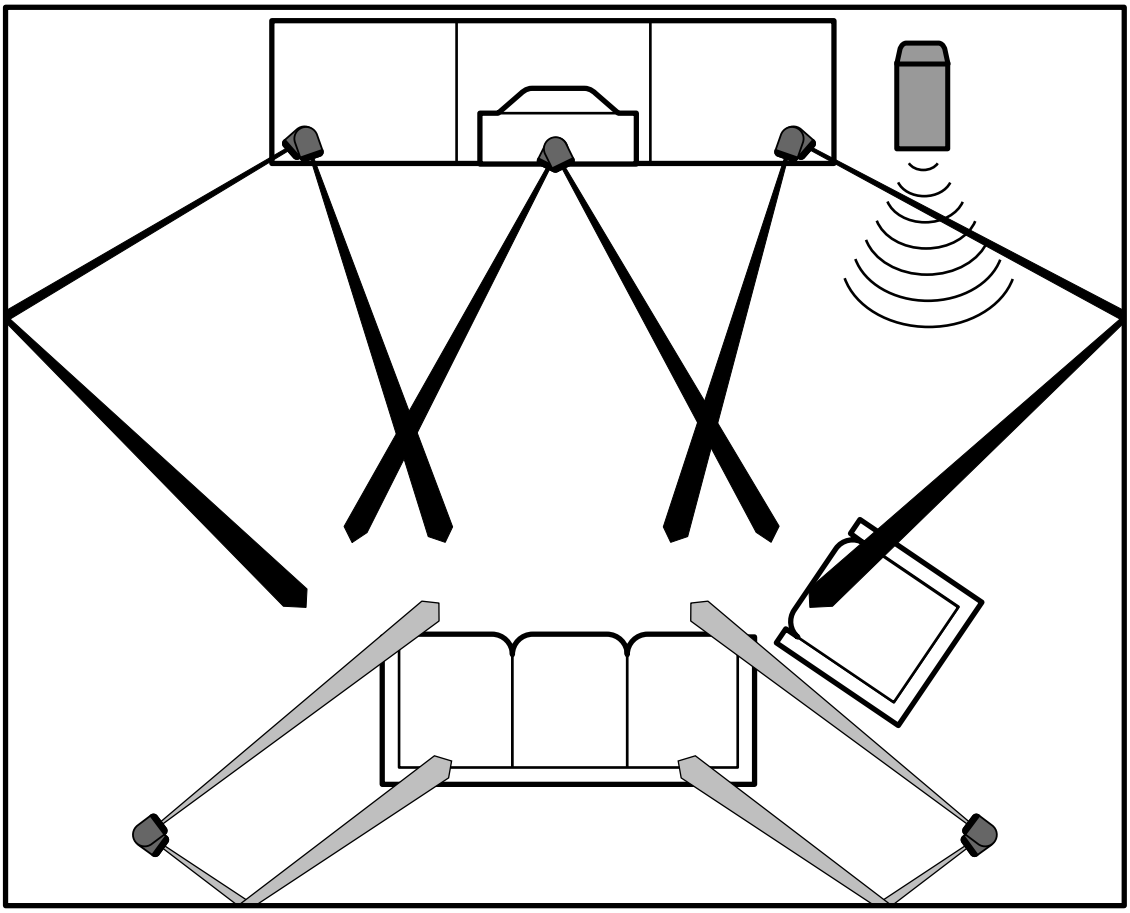




5. アクースティマスは、壁と壁の中央や、天井と床の中間の高さにならないように設置してください。低音に対して悪い影響が出る場合があります。



◆ LS-PROシステムの設置例◆

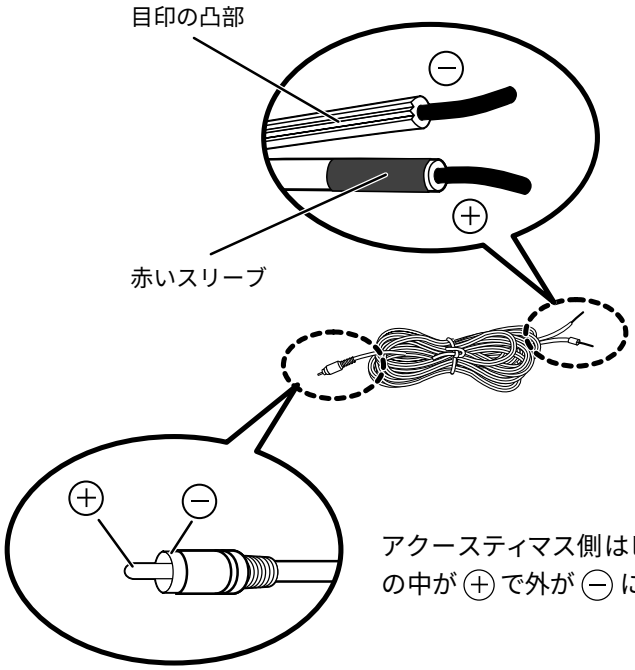


⚠ 注意 **スピーカーは、水平で安定した表面を選んで設置してください。**

ケーブルについて

◆フロントスピーカー用ケーブル、サラウンドスピーカー用ケーブルの極性の見分け方◆

スピーカー用ケーブルの極性（⊕、⊖）は、図のようになっています。



スピーカー側は、赤いスリーブが付いている方が ⊕ になります。スリーブが取れてしまったり、ケーブルを短くしてご使用になる場合は、図のようにケーブルに凸がある方が ⊖ になりますのでケーブルの凸を目印にしてください。

アクースティマス側はピンプラグの中が ⊕ で外が ⊖ になります。

◆ DVD-5 ◆

●DVD-5の設置位置を選ぶ

1.水平でしっかりした台や、オーディオラックなどに設置してください。また、本機の放熱用のスリットを塞がないように設置してください。

2. アクースティマスからの距離が約9m（DVD-5・アクースティマス接続ケーブルの長さ）の範囲に、DVD-5を設置します。

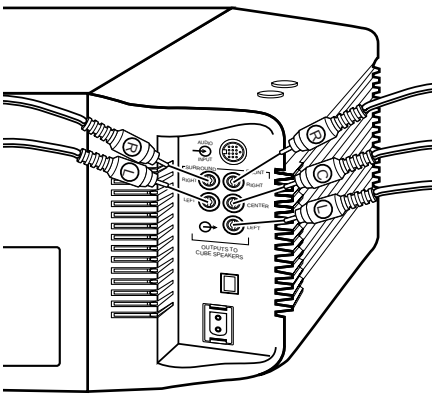
※付属の映像用ピンケーブルの長さが合わない場合や、追加で必要な場合は、市販のケーブルを別途ご用意ください。

アクースティマスとスピーカーを接続する

アクースティマスの設置位置が決まったら、サテライトスピーカーの接続を行います

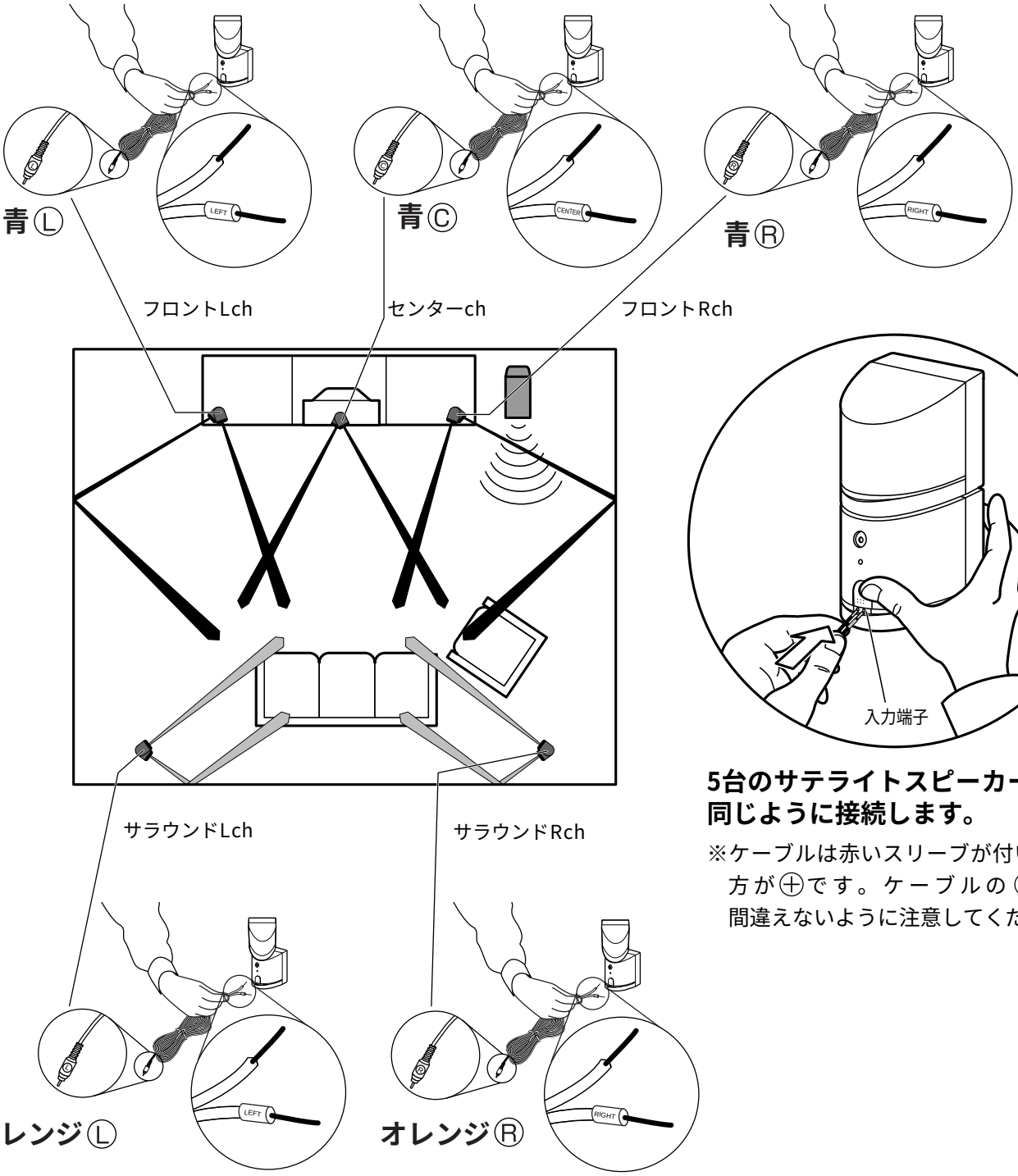
1.アクースティマスとスピーカーケーブルを接続します。

スピーカーケーブルのプラグを確実にアクースティマスのジャックに差し込みます。



青いプラグ Ⓡ - フロントRch（右側）スピーカー用
青いプラグ Ⓒ - センター（前方中央）スピーカー用
青いプラグ Ⓛ - フロントLch（左側）スピーカー用
オレンジのプラグ Ⓡ - サラウンドRch（右側）スピーカー用
オレンジのプラグ Ⓛ - サラウンドLch（左側）スピーカー用

2.スピーカーケーブルとサテライトスピーカーを接続します。



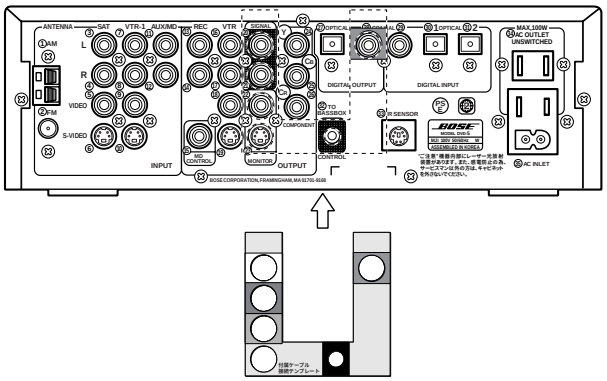
5台のサテライトスピーカーを全て同じように接続します。

※ケーブルは赤いスリーブが付いている方が⊕です。ケーブルの⊕、⊖を間違えないように注意してください。

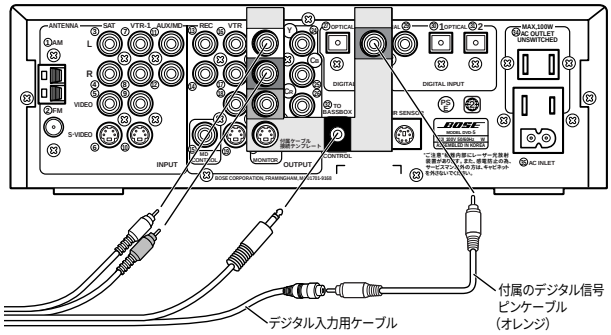
3.DVD-5とアクースティマスを接続します。

テンプレートの色に合わせてDVD-5・アクースティマス接続ケーブルの各プラグをそれぞれの端子に確実に差し込んでください。

a　DVD-5の背面に付属の
テンプレートを取り付けます。



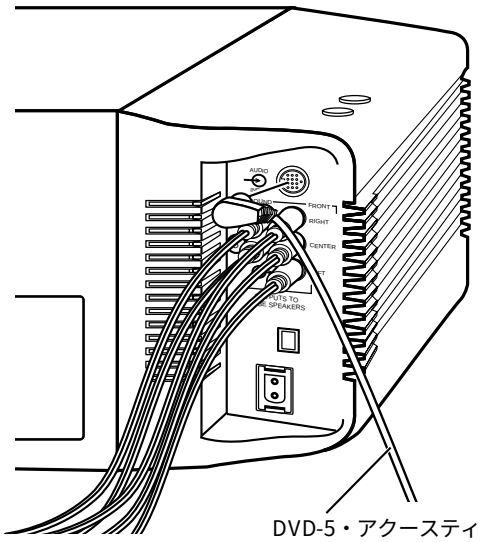
b　テンプレートの色と同じ色のケーブルのプラグを
確実に奥まで差し込んでください。



> **注意**　**DVD-5・アクースティマス接続ケーブルの音声用（赤、白ピンプラグ）は、必ずSIGNAL端子に接続してください。**

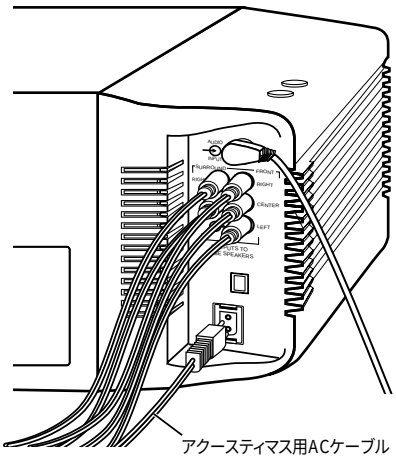
4.アクースティマスへケーブルを接続します。

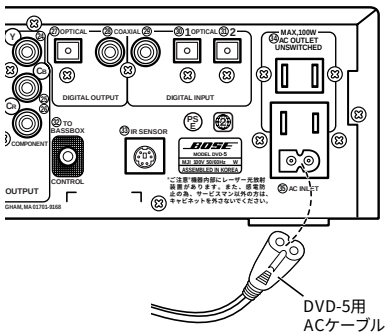
DINコネクター（13ピン）を向きに注意して奥までしっかり差し込みます。



5.アクースティマス用ACケーブルとDVD–5用 ACケーブルを接続します。

> ⚠ **注意** すべての結線が終わるまでプラグはコンセントに差し込まないでください。





外部の機器をLS-PROシステムに接続する

入力端子の名称は、目安としての名称です。どの入力端子にどの外部の機器を接続しないと故障するという内容のものではありません。しかし、使い勝手や初期設定モードの関係で、名称に合った機器を接続することをおすすめします。

※VIDEO、SAT（サテライトチューナーの意）とは、ビデオデッキだけを指すものではありません。TVの音声、ビデオデッキ、ケーブルテレビやBS・CSチューナーの音声などを意味しています。

◆各入力端子の初期設定について◆

入力端子	フィルムEQ	DRC※
VTR 1	ON	ON
VTR 2	ON	ON
SAT	ON	ON
AUX/MD	OFF	OFF（固定）
COAX IN	OFF	OFF
OPT 1	OFF	OFF
OPT 2	OFF	OFF

参考：内蔵音源（ソース）の初期設定

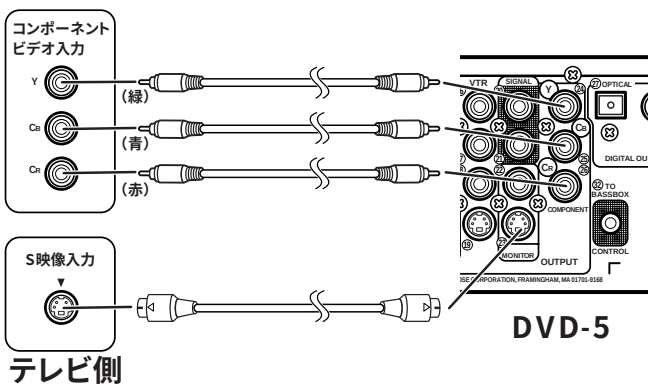
音源（ソース）	フィルムEQ	DRC※
CD・MP3	OFF（固定）	OFF（固定）
内蔵FM/AM	OFF（固定）	OFF（固定）
DVD	ON	ON

※DRC＝ダイナミックレンジコンプレッション

設定は再生途中で変更することができます。詳しくは、フィルムEQについて（33ページ）、DRC（ダイナミックレンジコンプレッション）について（33ページ）を参照してください。

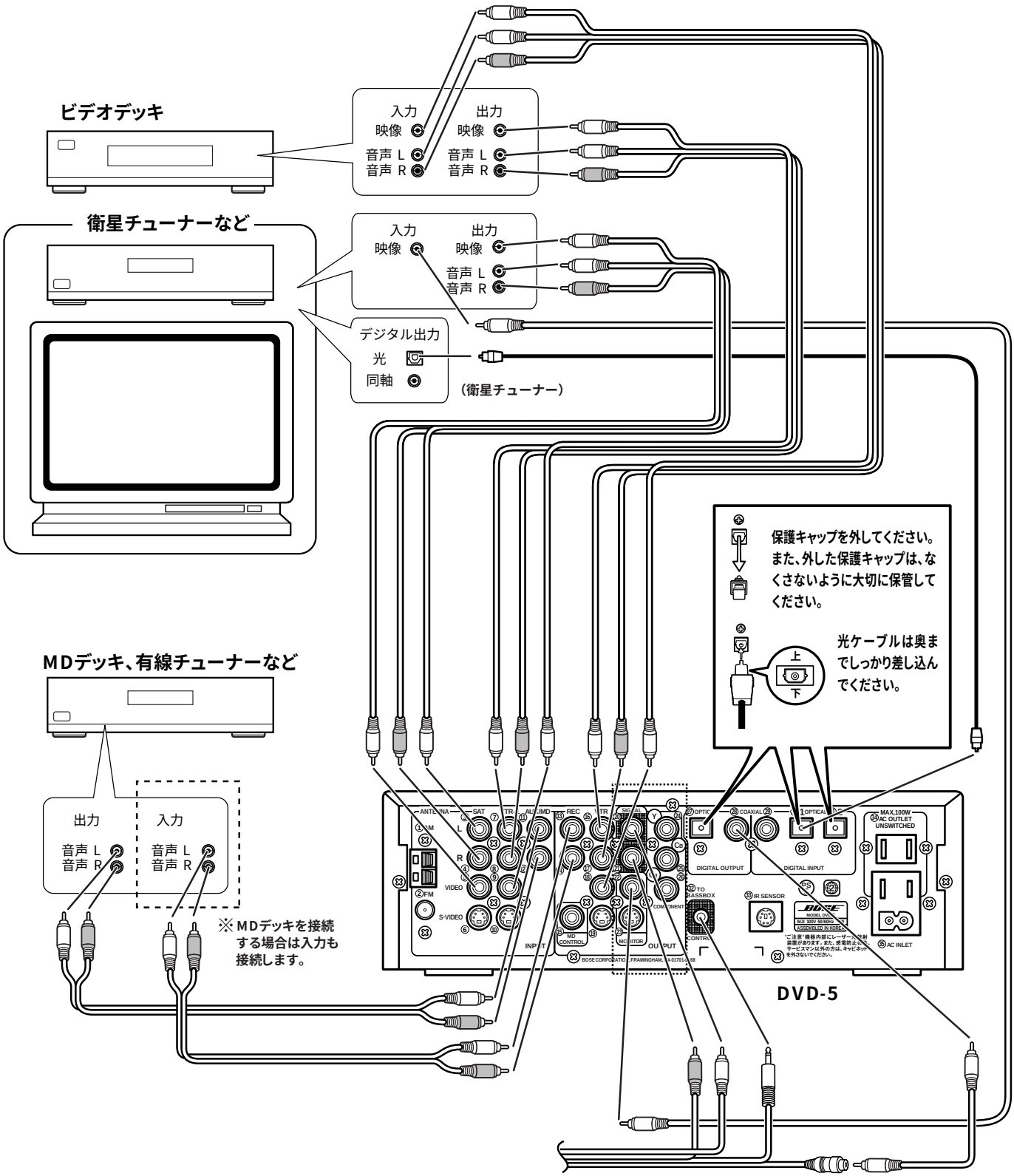
※テレビにS映像、コンポーネント入力端子がある場合

上記の映像入力端子を持つテレビに接続する場合は、映像用ピンケーブル（黄）のかわりに下記のいずれかの接続で、より鮮明な画像を得られます。詳しくはテレビの取扱説明書をお読みください。



注：映像出力端子から出力される信号について

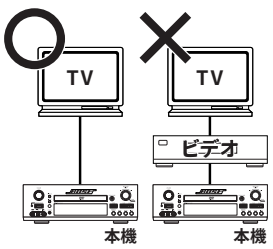
内蔵DVDビデオ再生時は全ての映像出力端子（コンポジット、S映像、コンポートネント）から信号が出力されます。映像を伴う外部の機器を本機に接続して使用する場合は、外部の機器から入力された信号の種類によって、本機の映像出力から出力される信号の種類が決まります。外部の機器からコンポジットの映像信号しか入力されない場合は、本機から出力される映像もコンポジットしか出力されません。外部の機器からS映像しか入力されない場合は、本機からの出力もS映像信号のみになります。したがって、映像ケーブルに関してはコンポジットだけは全ての機器で使用できるように本機と外部の機器、本機とテレビそれぞれを必ず接続するようにしてください。



お願い

本機の映像出力は、
直接テレビに接続してください。

テレビと本機の間にビデオテープレコーダーやAVセレクターを接続すると、著作権保護の影響により、再生時に画面が乱れることがあります。

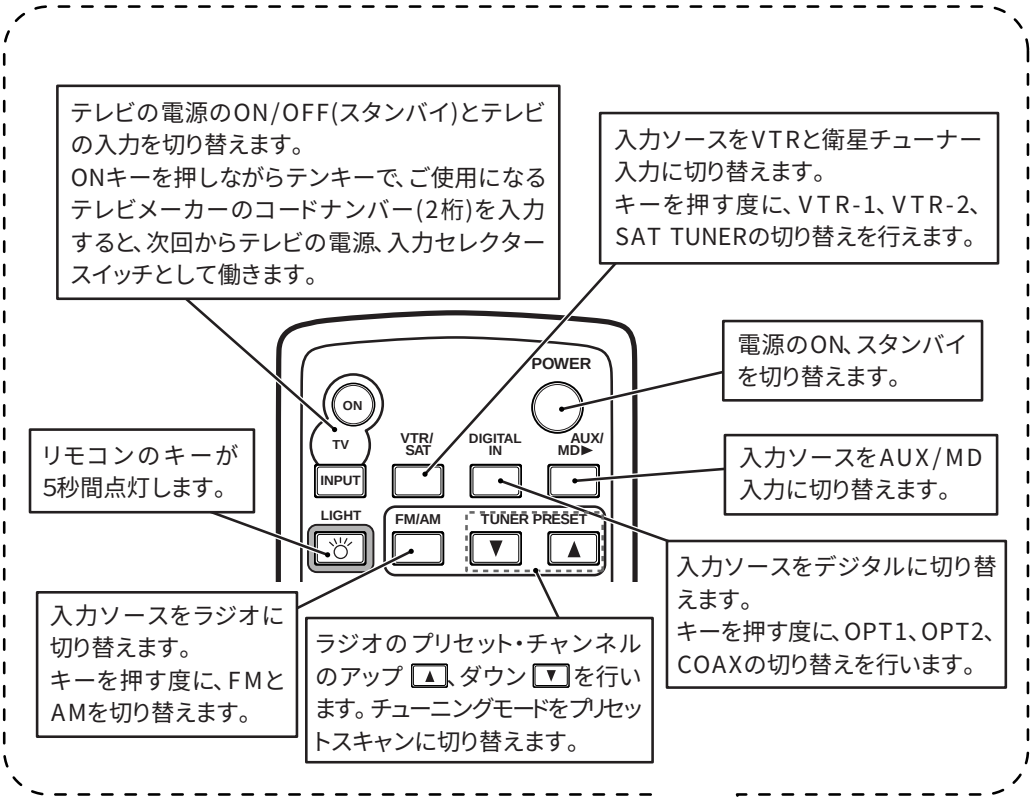


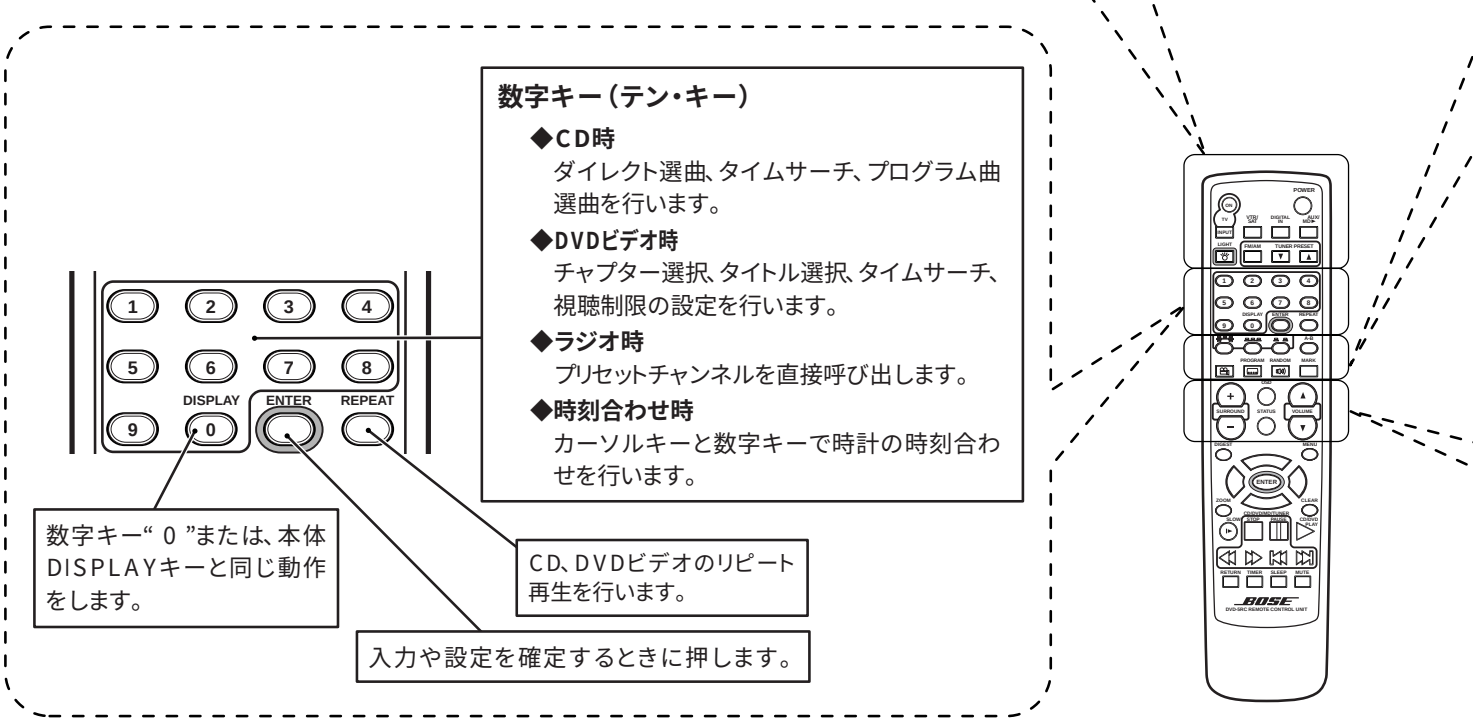
各部の名称

●リモコン

コードナンバー表

コード	メーカー名
01	日立
02	ソニー
03	ソニー
04	松下
05	松下
06	東芝
07	シャープ
08	シャープ
09	三菱
10	三洋
11	三洋
12	三洋
13	ビクター
14	ビクター
15	ビクター
16	アイワ
17	パイオニア
18	SAMSUNG
19	富士通ゼネラル
20	富士通ゼネラル
21	フナイ
22	フナイ
23	フナイ





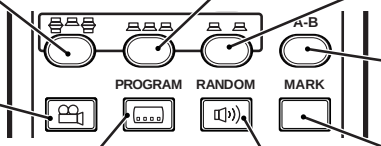
5 スピーカーモード（32 ページ参照）
5スピーカーモードに切り替えるときに使います。サラウンドスピーカーのレベルを初期値に戻すには、キーを3秒以上押します。5スピーカーモード時にこのキーを押すと、シミュレーテッド・サラウンドと切り替えることができます。

3 スピーカーモード（32 ページ参照）
3スピーカーモードに切り替るときに使います。センタースピーカーのレベルを初期値に戻すには、キーを3秒以上押します。

2 スピーカーモード
2スピーカーモードに切り替えるときに使います（32ページ参照）。DRC(ダイナミックレンジコンプレッション)のON/OFFを切り替えるときに、キーを3秒以上押します（33ページ参照）。

アングル切り替え
マルチアングルで収録されたDVDビデオを再生中、アングルを切り替えるときに押します。

CDの場合は同一トラック、DVDの場合は同一チャプター内で指定した二点間を繰り返し再生させるときに、始点と終点を指定します（37ページ参照）。



PROGRAM/ 字幕
◆音楽CDディスク再生の場合
プログラム再生を行うとき押します（37ページ参照）。
◆DVDビデオ再生の場合
字幕が収録されたDVDビデオを再生中、字幕言語の切り替えや字幕表示のON/OFFを行います。

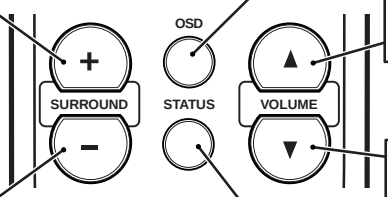
RANDOM/ 音声
◆音楽CDディスク再生の場合
ディスクの中の全ての曲を重複しないで順不同に再生します。
◆DVDビデオ再生の場合
音声言語を切り替えます。

ブックマークの登録と呼び出しを行います。ブックマークとは、本にしおりを挟むように、DVDビデオディスクにブックマークを付けることで、いつでもそのブックマークの所から再生を始められるようにする機能です。本機は、ブックマークを一枚のディスクに付き2ヶ所で5枚まで記憶できます（41ページ参照）。

5 スピーカーモードへの切り替え
サラウンド、センタースピーカーの音量を上げる
◆2スピーカーモード時
5スピーカーモードに切り替わり、サラウンドレベルが1dB上がります。
◆3スピーカーモード時
センタースピーカーの音量を上げるときに押します。
◆5スピーカーモード時
サラウンドスピーカーの音量を上げるときに押します。

オンスクリーンディスプレイ
テレビの画面に初期設定画面を表示をするときに押します。各種初期設定を行います。
もう一度押すと、もとの画面に戻ります（42～43ページ参照）。

サラウンド、センタースピーカーの音量を下げる
◆3スピーカーモード時
センタースピーカーの音量を下げるときに押します。
◆5スピーカーモード時
サラウンドスピーカーの音量を下げるときに押します。



音量を上げるときに押します。

音量を下げるときに押します。

ステータスバーを表示させるときに押します。もう一度押すと、もとの場面に戻ります（41ページ参照）。

◆DIGEST（ダイジェスト）モード（36 ページ参照）
DVDビデオ完全停止中は、ディスクの最初の各タイトルから順番にチャプターの最初の場面を、1画面に付き9つ表示されます。再生中は、今再生中のタイトル内の各チャプターの最初の場面が、1画面に付き9つ表示されます。チャプターが10以上ある場合は、2ページ目以降に表示されます。

◆DIGESTモード解除
このキーを押して、表示部に“ STOP ”と表示させます。

※ディスクによっては、操作できないものもあります。

カーソルキー

◆DVDビデオ再生中
メニュー画面でカーソルを上に移動させるときに押します。

◆OSD画面
選択項目を切り替えるときに押します。

◆ZOOM時
上の方に拡大したい部分があるときに押します。

◆タイマーセット時
音源を選択するときに押します。タイマーセットの曜日の選択時は、このキーで曜日を切り替えます。

◆時刻合わせ
曜日を合わせるときに押します。

カーソルキー

◆DVDビデオ再生中
メニュー画面でカーソルを左に移動させるとき押します。

◆OSD画面
選択項目を切り替えるときに押します。

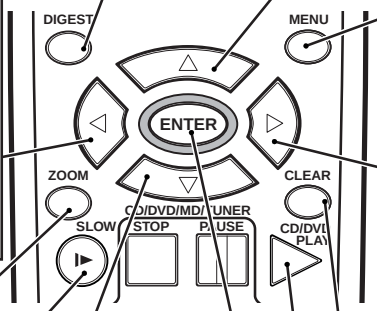
◆STATUS BAR
選択項目を左に移動するときに押します。

◆ZOOM時
左の方に拡大したい部分があるときに押します。

◆タイマーセット時
一つ前の項目に移動するときに押します。

◆時刻合わせ
一つ前の項目に移動するときに押します。

DVDビデオのタイトルメニューまたは、ディスクメニューを呼び出すとき押します。



カーソルキー

◆DVDビデオ再生中
メニュー画面でカーソルを右に移動させるとき押します。

◆OSD画面
選択項目を切り替えるときに押します。

◆STATUS BAR
選択項目を右に移動するときに押します。

◆ZOOM時
右の方に拡大したい部分があるときに押します。

◆タイマーセット時
次の項目に移動するときに押します。

◆時刻合わせ
次の項目に移動するときに押します。

画面を拡大して見たいときに押します。カーソルキーで拡大したい部分を選んでください。

DVDビデオ再生時にスローモーション再生(順方向のみ)になります。

各設定を決定するときに押します。

ディスクの再生を行います。

カーソルキー

◆DVDビデオ再生中
メニュー画面でカーソルを下に移動させるとき押します。

◆OSD画面
カーソルを移動させ、設定の変更をするときに押します。

◆ZOOM時
下の方に拡大したい部分があるときに押します。

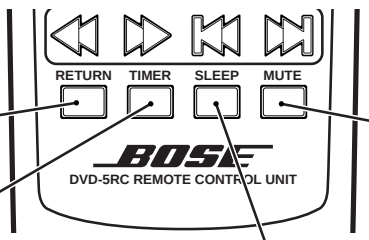
◆タイマーセット時
音源を選択するときに押します。タイマーセットの曜日の選択時は、このキーで曜日を切り替えます。

◆時刻合わせ
曜日を合わせるときに押します。

◆タイマー設定時
タイマー設定をキャンセルします。

◆CDプログラム再生時
最後にプログラムされた曲を削除します。

◆STATUS BARのブックマーク登録済みが選択されているとき
選択されていたブックマークを削除します。

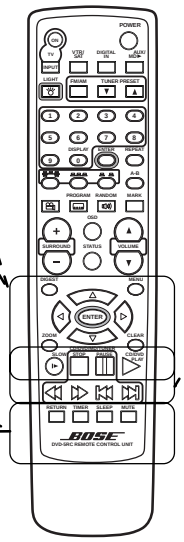


OSD画面表示中に押すと、もとの画面に戻ります。

音声を一時的に止めることができます。もう一度このキーを押すか、他のキーを押すと、ミュートは解除されます。

このキーとカーソルキー、数字キーを使ってタイマーをセットします。また、スタンバイの時にタイマーをセットしてあれば、このキーを押すと、タイマーの内容をチェックできます。

スリープタイマーのセットができます。



◆DVDビデオ、CDモード時
キーを押す度に、早送りの速度が上がります。

◆ラジオモード時
マニュアルでチューニングモードへ変わります。押し続けると連続で周波数が上がり、キーを押すのを止めたところで停止します。
※FMモード時は強制モノラルになります。

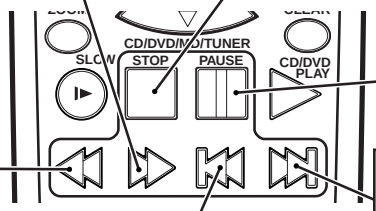
◆DVDビデオ、CDモード時
キーを押す度に、早戻しの速度が上がります。

◆ラジオモード時
マニュアルでチューニングモードへ変わります。押し続けると連続で周波数が下がり、キーを押すのを止めたところで停止します。
※FMモード時は強制モノラルになります。

◆音楽CDディスクのとき
・通常再生、ランダム再生モード時
RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。もう一度押すと完全に停止します。
・リピート再生モード時
RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。もう一度押すとA-Bリピート設定は解除され、完全に停止します。
・プログラム再生モード時
RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。もう一度押すと完全に停止します。さらに押すとプラグラム内容が削除されます。
・プログラム時
最後にプログラムした、一曲を削除できます。

◆DVDビデオ時
PLAY、PAUSE中に押すと、RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。A-Bリピート再生時にはA-Bリピートが解除されます。もう一度押すと完全に停止します。

◆ラジオモード時
自動選局中に押すと、その周波数で停止します。



DVDビデオ、CD再生中に押すと、再生を一時停止します。さらにもう一度押すと、DVDビデオ以外の場合は再生を開始、DVDビデオでは、コマ送りを行います。

◆音楽CDディスクのとき
・通常再生モード時
次の曲の先頭に移動します。停止中および最終曲再生中は1曲目に移動します。
・ランダム再生モード時
次の曲の先頭に移動します。最終曲のときは受け付けません。ただし、ランダムオールリピート時は新たなランダム1曲目に移ります。
・ALL REPEAT再生モード時
通常再生モード時と同じですが、最終曲時は1曲目に移動します。
・A-Bリピートモード時
通常再生モード時と同じですが、A-Bリピートモードの設定は解除されます。
・プログラム再生モード時
次のプログラム曲の先頭へ移動します。プログラム最終曲時はキーを受け付けません。ただし、プログラムオールリピートモードの最終曲時はプログラム1曲目に移動します。

◆DVDビデオ時
・PLAY、PAUSE中
次のチャプターの先頭に移動します。ただし、停止中および、最終タイトル・最終チャプター再生時はキーを受け付けません。
・タイトルリピートモード時
PLAY、PAUSE中と同様に動作しますが、再生中のタイトル・最終チャプター時は再生中のタイトルの先頭チャプターに移動します。停止中はキーを受け付けません。
・チャプターリピートモード
再生中のチャプターの先頭に移動します。
・A-Bリピートモード時
PLAY、PAUSE中と同様に動作しますが、A-Bリピートモードの設定は解除されます。
・ダイジェスト機能使用中
次のページに移動します。

◆ラジオモード時（スキャンチューニング）
周波数を上げながら自動選局を行います。放送局が1局も選局できなかった場合は、1周して自動選局を開始した周波数で停止します。FMの場合は強制モノラルを解除します。

◆MP3再生時
MP3を再生中は、次の曲へ移動します。

◆音楽CDディスクのとき
・通常再生モード時
再生中の曲の先頭へ移動します。もう一度押すと、一つ前の曲の先頭に移動します。ただし、1曲目から最終曲へは移動しません。
・ランダム再生モード時
再生中の曲の先頭に移動します。
・ALL REPEAT再生モード時
通常再生モード時と同じですが、1曲目を再生中に押すと、曲の先頭に移動し、もう一度押すと、最終曲の先頭に移動します。
・A-Bリピートモード時
通常再生モード時と同じですが、A-Bリピートモードの設定は解除されます。
・プログラム再生モード時
再生中の曲の先頭へ移動します。もう一度押すと、一つ前のプログラム曲の先頭に移動します。ただし、1曲目の場合はキーを受け付けません。

◆DVDビデオ時
・PLAY、PAUSE中
再生中のチャプターの先頭に移動します。もう一度押すと、一つ前のチャプターの先頭に移動します。停止中はキーを受け付けません。
・タイトルリピートモード時
再生中のチャプターの先頭に移動します。もう一度押すと、一つ前のチャプターの先頭に移動します。停止中はキーを受け付けません。
・チャプターリピートモード
再生中のチャプターの先頭に移動します。
・A-Bリピートモード時
PLAY、PAUSE中と同様に動作しますが、A-Bリピートモードの設定は解除されます。
・ダイジェスト機能使用中
前のページに戻ります。

◆ラジオモード時（スキャンチューニング）
周波数を下げながら自動選局を行います。放送局が1局も選局できなかった場合は、1周して自動選局を開始した周波数で停止します。FMの場合は強制モノラルを解除します。

◆MP3再生時
MP3を再生中は、一つ前の曲へ移動します。

●前面

DISPLAY

表示部に表示する内容を切り替えるとき押します。

◆音楽CD再生時

・キーを押す度に、**再生中の曲番とその曲の演奏経過時間→再生中の曲番と1曲目からの合計演奏経過時間→再生中の曲番とその曲の残り演奏時間→再生中の曲番と最後の曲までの合計残り演奏時間→全曲数と総演奏時間→時計表示→**（最初の表示に戻り、以後キーを押す度に繰り返す）…。
完全に停止している時には、キーを押す度に、時計表示と全曲数と総演奏時間表示を切り替えます。

・スタンバイ時にキーを押すと、スタンバイ時の時計表示を消すことができます。もう一度押すと、時計表示に戻ります。

◆DVDビデオ再生時

・再生中、ポーズ時にキーを押す度、**再生中のチャプター番号とタイトル経過時間→再生中のチャプターと総演奏時間→再生中のチャプター番号とタイトル残り時間→時計表示→（**最初の表示に戻り、以後キーを押す度に繰り返す）…。

・続き再生メモリー状態(RESUME)で停止中は、再生を停止した時のタイトル番号、チャプター番号、チャプター経過時間を表示します。

・完全停止状態では、“ STOP ”と時計表示を交互に表示します。

◆ラジオモード時

・キーを押す度に、**周波数表示→時計表示→**（最初の表示に戻り、以後キーを押す度に繰り返す）…。

◆外部からの入力モード時

・キーを押す度に、**ソース表示→時計表示→**（最初の表示に戻り、以後キーを押す度に繰り返す）…。

◆時刻合わせをする

・キーを3秒以上押し続けると、時刻設定のモードになります。このキーとマルチジョグダイヤルを使って、時刻の設定ができます。時刻設定中に、このキーを押すと、一つ前の設定項目に戻ることができます（31ページ参照）。

◆スタンバイ時

・表示部のスタンバイ時の時計表示を消すことができます。

TIMER（31 ページ参照）

◆スタンバイ時

・タイマーの設定内容を確認することができます。

◆電源ON時

・このキーとマルチジョグダイヤルを使って、タイマーを設定することができます。時刻設定中にキーを押すと、一つ前の設定項目に戻ることができます。

・キーを3秒以上押し続けると、時刻やソースの設定を変えずにタイマーモードのON/OFFが切り替えられます。表示部にタイマーインジケーターを点灯させてから、POWERキーを押して、スタンバイ状態にするとタイマーが働きます。

ロゴイルミネーション

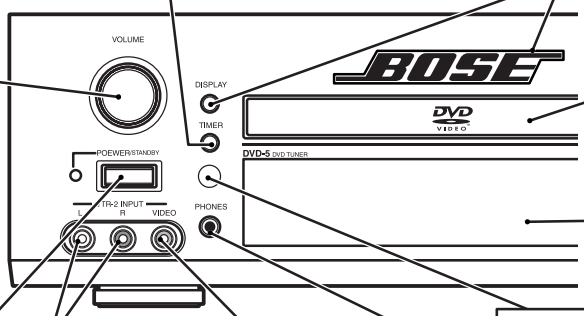
電源ONのときに、MODEキーを3秒以上押し続けると、イルミネーションのON/OFFができます。

ディスクトレー

このトレーにディスクをレーベルを上にしてセットします。本機は8cmのディスクもアダプター無しで使用することができます。

VOLUME

時計方向に回すと音量が上がります。本機は最後に聞いていた入力ソースそれぞれのボリュームレベルをメモリーしています。入力ソースを切り替えた時に入力ごとに音量が違う場合があります。



表示部

いろいろな情報やモードを表示するところです。

受光部

内部にリモートコントローラーから出された赤外線を受光する部分があります。リモートコントローラーの送信部をここに向けて操作してください。

POWER/STANDBY

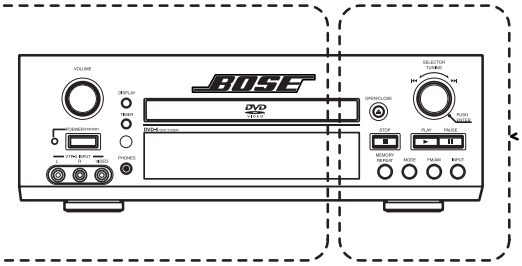
スタンバイ時に押すとスタンバイインジケーター(赤)が消えて電源が入ります。電源が入っている状態でキーを押すと、スタンバイになります。このとき、スタンバイインジケーターが点灯し、表示部の輝度を落として時計表示になります。

外部（VTR-2）音声入力端子

外部（VTR-2）映像（コンポジット）入力端子

PHONES

φ3.5mmのステレオヘッドホンプラグをここに差し込むと、ヘッドホンで音声が楽しめます。またここにプラグを差し込むとスピーカーからの音声が止まります。



STOP

再生を停止する。

◆音楽CDのとき

・通常再生、ランダム再生モード時

RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。もう一度押すと、完全に停止します。

・リピート再生モード時

RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。もう一度押すと、完全に停止します。

・プログラム再生モード時

RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。もう一度押すと、完全に停止します。さらに押すと、プログラム内容が削除されます。

◆DVDビデオのとき

PLAY、PAUSE中にキーを押すと、RESUME(続き再生メモリー)状態で停止します。A-Bリピート再生時にはA-Bリピートが解除されます。もう一度押すと、完全に停止します。

◆ラジオモード時

自動選局中に押すと、その周波数で停止します。

OPEN/CLOSE

ディスクトレーの開閉を行います。

マルチジョグダイヤル

このダイヤルを使って、次のような設定を行います。

- **現在時刻の設定**
- **タイマー内容の各種設定**
- **曲のスキップ、早送り、戻し、早戻し**
- **INPUTキーが押された後に、このキーで入力ソースの選択**
- **ラジオの放送局の選択**

PLAY

ディスクの再生を行います。

PAUSE

DVDビデオ、CD再生中に押すと、再生を一時停止します。さらにもう一度押すと、DVDビデオ以外の場合は再生を開始、DVDビデオでは、コマ送りを行います。PLAYキーを押すと再生を開始します。

MEMORY REPEAT

◆チューナーモードのとき（39 ページ参照）

今聞いている放送局をプリセットチャンネルの一番小さい番号にメモリーします。このキーを3秒以上押し続けると、表示されているプリセットチャンネルを消去できます。

◆音楽CDのとき

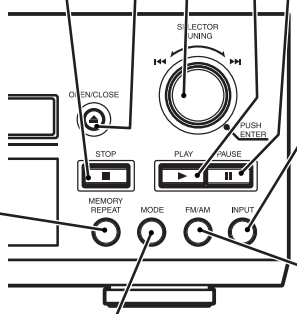
キーを押す度に、次のように再生モードが変わります。

1曲リピート→全曲リピート→リピート解除→（以後キーを押す度に繰り返す）**…**

◆DVDビデオのとき

キーを押す度に、次のように再生モードが変わります。

チャプターリピート→タイトルリピート→リピート解除→（以後キーを押す度に繰り返す）**…**



INPUT

入力信号を切り替えるときに押して、マルチジョグダイヤルで聞きたいソースを選び、マルチジョグダイヤルを押して決定します。

FM/AM

チューナーに切り替えるときに押します。また、チューナーモード時はバンドの切り替えを行うときに押します。

MODE（ロゴイルミネーションをON/OFFするには、電源ONのときに、キーを3秒以上押し続けます）

◆チューナーモードのとき（38 ページ参照）

キーを押す度に、次のように選局方法が変わります。

SCAN→PRESET SCAN→MANUAL→（以後キーを押す度に繰り返す）**…**

・SCAN

マルチジョグダイヤルを反時計方向に回すと、周波数を下げながら選局します。放送を受信すると停止します。マルチジョグダイヤルを時計方向に回すと、周波数を上げながら選局します。放送を受信すると停止します。放送局が1局も受信できない場合は、選局を開始した周波数で停止します。

・PRESET SCAN

マルチジョグダイヤルを反時計方向に回すと、プリセットチャンネルを1つ下げます。マルチジョグダイヤルを時計方向に回すと、プリセットチャンネルを1つ上げます。

・MANUAL

マルチジョグダイヤルを反時計方向に回すと、周波数が下がります。マルチジョグダイヤルを時計方向に回すと周波数上がります。FM時に放送を受信すると表示部に“ MONO ”が点灯します。

※FMモード時は強制モノラルになります。

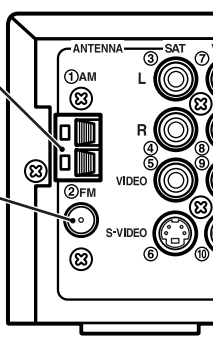
◆“ フィルムEQ ”のON/OFF（33 ページ参照）

“ フィルムEQ ”のON/OFFを切り替えるときに押します。

ただし、DVDビデオディスク以外のときと、チューナーモードのときには“ フィルムEQ ”はOFFに固定されます。DVDビデオディスク、VTR入力、SAT入力の信号には初期設定はON。このキーを押す度にOFF→ONと切り替わります。MD/AUX入力、DIGITAL入力信号には初期設定はOFF。キーを押す度に、ON→OFFと切り替わります。

※“ フィルムEQ ”はそれぞれの入力信号に対して、最後の設定を記憶しています。

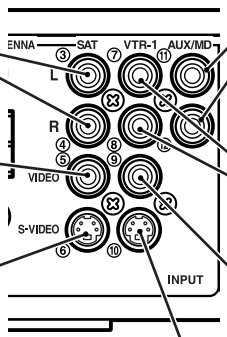
●背面



①AMアンテナ

②FMアンテナ

※アンテナの接続および調整は28ページ参照。



③④ 外部（衛星チューナーまたはTV）
音声入力端子

⑤ 外部（衛星チューナーまたはTV）
映像（コンポジット）入力端子

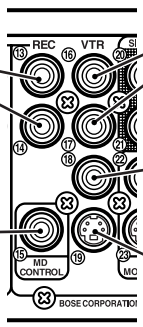
⑥ 外部（衛星チューナーまたはTV）
映像（S映像）入力端子

⑪⑫ 外部（AUX/MD）
音声入力端子

⑦⑧ 外部（VTR-1）
音声入力端子

⑨ 外部（VTR-1）
映像（コンポジット）入力端子

⑩ 外部（VTR-1）
映像（S映像）入力端子



⑬⑭ 外部（REC）
音声出力端子

⑮ MDコントロール信号
出力端子
※将来的に使用。現在この端子に
接続する製品はありません。

⑯⑰ VTR録音
音声出力端子

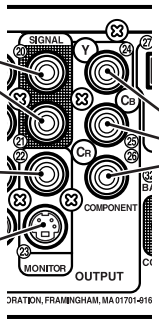
⑱ VTR録画
映像（コンポジット）出力端子

⑲ VTR録画
映像（S映像）出力端子

⑳㉑ ベースモジュール用
音声出力端子

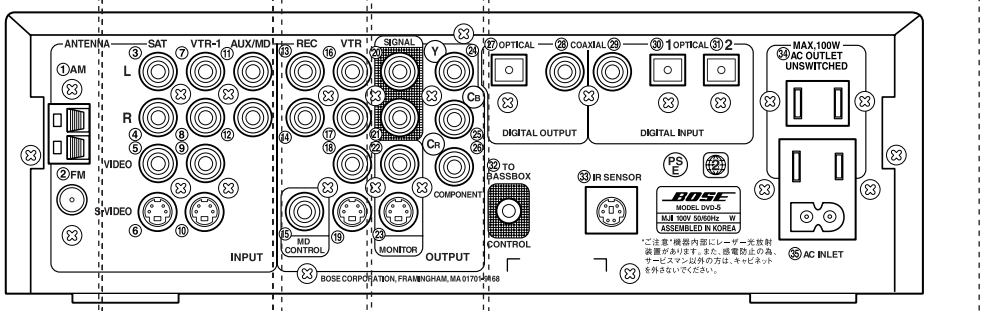
㉒ モニター
映像（コンポジット）出力端子

㉓ 映像（S映像）出力端子



㉔ コンポーネント映像出力端子（Y）
㉕ コンポーネント映像出力端子（C_B）
㉖ コンポーネント映像出力端子（C_R）
※コンポーネント出力端子から出力される信号は、DVDビデオを再生したときです。

注：映像出力端子から出力される信号について
内蔵DVDビデオ再生時は全ての映像出力端子から信号が出力されますが、外部の機器を選択した場合は、外部の機器から入力されている映像信号のと同じ種類の信号しか出力されません。



㉙ デジタル（コンポジット）入力端子

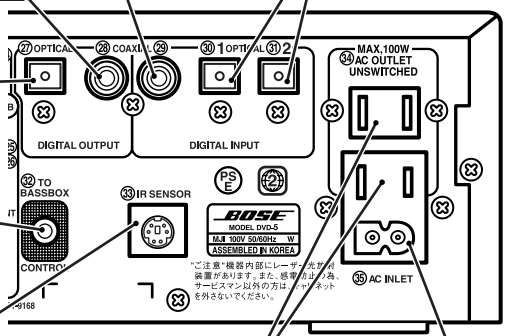
㉚㉛ 光デジタル入力端子

㉘ デジタル（コンポジット）出力端子

㉗ 光デジタル出力端子

㉜ ベースモジュール
コントロール信号出力端子

㉝ 外部リモコン受信
接続端子

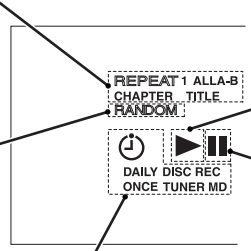


㉞ ACコンセント

㉟ ACケーブル接続端子

●表示部

REPEAT 1	:CD、MP3時、1曲を繰り返し再生する1曲リピートを選択すると点灯します。
REPEAT ALL	:CD時、収録曲またはフォルダ内の曲（MP3時）すべてを繰り返し再生する全曲リピートを選択すると点灯します。
REPEAT A-B	:CD、DVDビデオモード時、指定したA点とB点を繰り返し再生するA-Bリピートを選択すると点灯します。
REPEAT CHAPTER	:DVDビデオモード時、選択したチャプターを繰り返し再生するチャプターリピートを選択すると点灯します。
REPEAT TITLE	:DVDビデオモード時、選択したタイトルを繰り返し再生するタイトルリピートを選択すると点灯します。



RANDOMインジケーター
ランダム再生を選択すると点灯します。

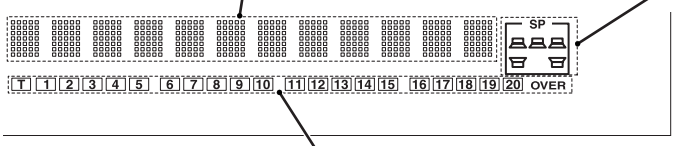
▶（プレイ）インジケーター

❚❚（ポーズ）インジケーター
再生を一時停止しているときに点灯します。

タイマーをセットすると、タイマーの設定に合わせてそれぞれのインジケーターが点灯します。

文字/時間表示
本機の動作状況や時間情報などを表示します。

スピーカーモード表示
現在のスピーカーモードを表示します。
また、ヘッドホンを差し込むと消灯します。



ミュージックカレンダー（CDのみ）
収録曲が20曲を越える場合は、OVERが点灯します。

タイトルナンバー（DVDビデオ）
T とタイトルナンバーの数字が点灯します。

MP3インジケーター
MP3で録音されているディスク使用時に点灯します。

AUTO SLEEPインジケーター
スリープモード時にSLEEPが点灯します。オートスリープ時にはAUTO SLEEPが点灯します。

CDインジケーター
CDまたは、ファイナライズ済みのCD-R、CD-RW使用時に点灯します。

FILM EQインジケーター
フィルムEQがONしているときに点灯します。

DRCインジケーター
ダイナミックレンジコンプレッションがONしているときに点灯します。

STEREOインジケーター
FM放送をステレオで受信したときに点灯します。

DVDインジケーター
DVDビデオ使用時に点灯します。

MONOインジケーター
マニュアルチューニング時に点灯します（強制モノラルモード）。

AUTOインジケーター
スキャンチューニング時に点灯します。

CHAPTERインジケーター
このインジケーターが点灯しているときには、文字/時間表示部にチャプターを表示します。

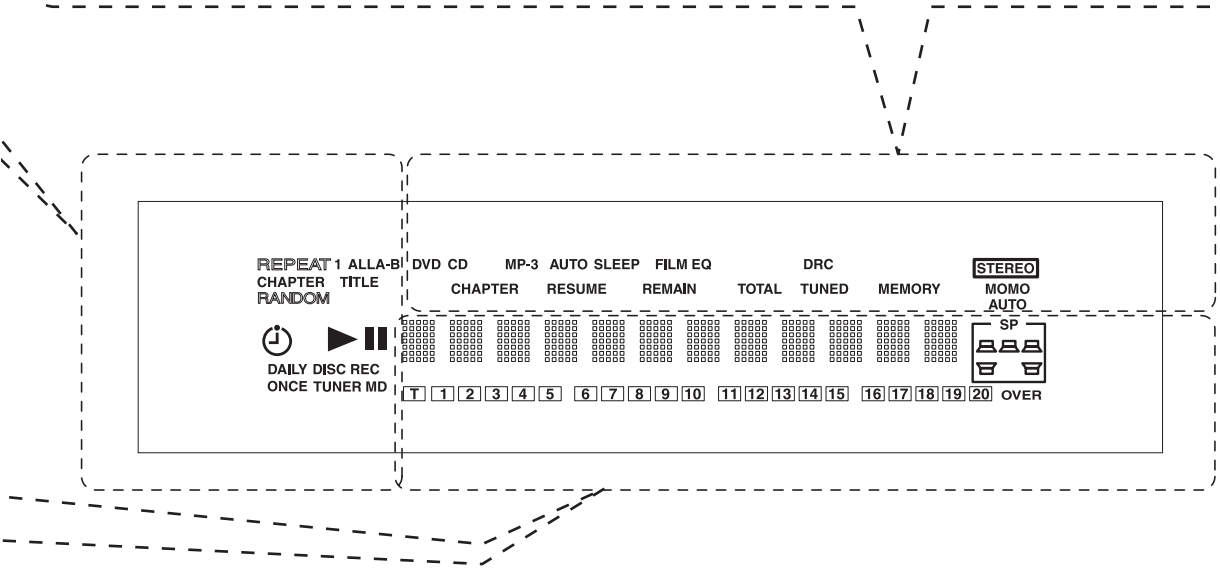
MEMORYインジケーター
プリセットチューニング時に点灯します。

TUNEDインジケーター
放送局を受信すると点灯します。

RESUMEインジケーター
リジューム停止中に点灯します。リジュームが点灯しているときに再生を再開すると、最後に停止した所から再生できます（続き再生メモリー機能）。

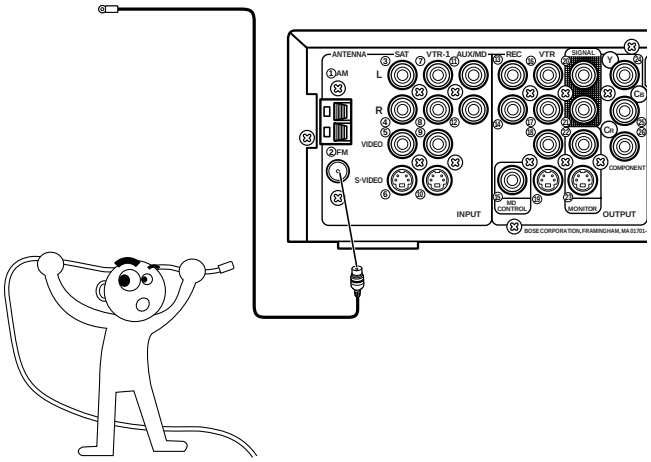
TOTALインジケーター
CD全体の残り時間および経過時間を表示しているときに点灯します。

REMAINインジケーター
CDの残り時間を文字/時間表示部に表示しているときに点灯します。



アンテナを接続する

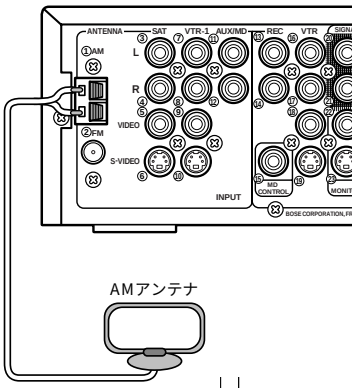
◆ FMアンテナ接続 ◆



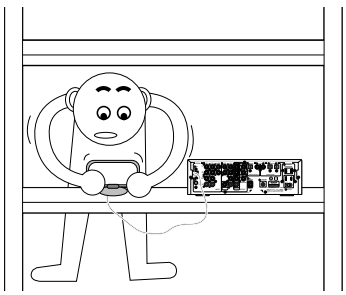
1. DVD-5の背面②にＦＭアンテナのプラグを確実に差し込みます。

2. アンテナアームを広げます。このアンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の設置場所をさがしてください。

◆ AMアンテナ接続 ◆



AMアンテナ

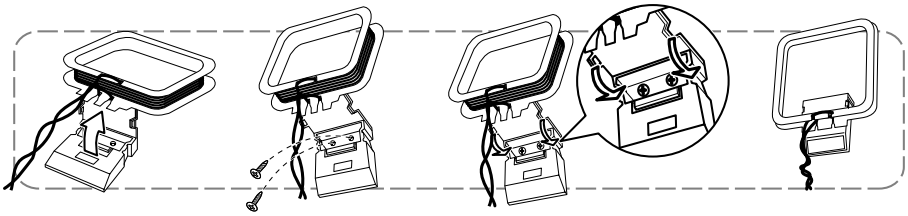


1. AMアンテナを下の図のように組み立てて、DVD-5背面①にコードの先端部を取り付けます。

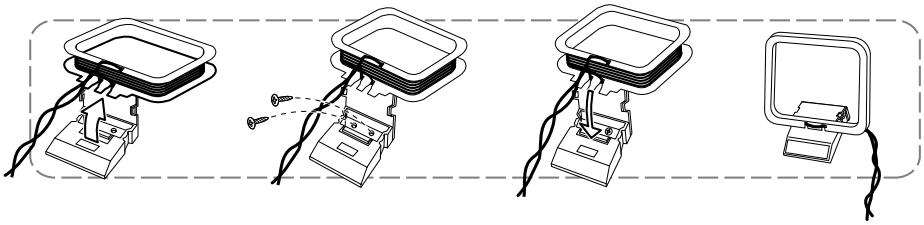
2. アンテナはDVD-5から50cm以上離して設置するようにしてください。

※本体上部、サイドのスリット部からなるべくアンテナを離すように設置してください。

3. ループの向きをいろいろ試して感度がよくなるところを探してください。



壁などに固定する場合

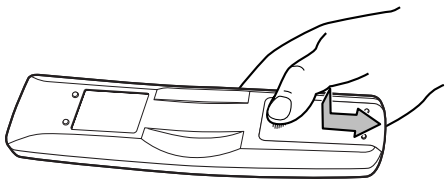


テーブルなどに置く場合

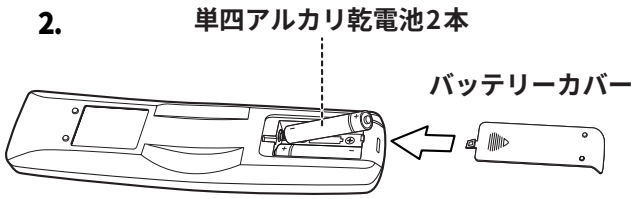
リモコンの使い方

◆電池の入れ方◆

1.



2.



1. リモコンを裏返しにして、図のようにフタを下に押しこみながら引き出すように電池ボックスを開けます。

2. ボックス内の表示に合わせて、乾電池（単四型）2本を入れてください。

3. スライドさせるようにフタを閉めてください。

※ 付属の電池は動作チェック用です。必ず新しい電池（単四型乾電池）をご用意ください。

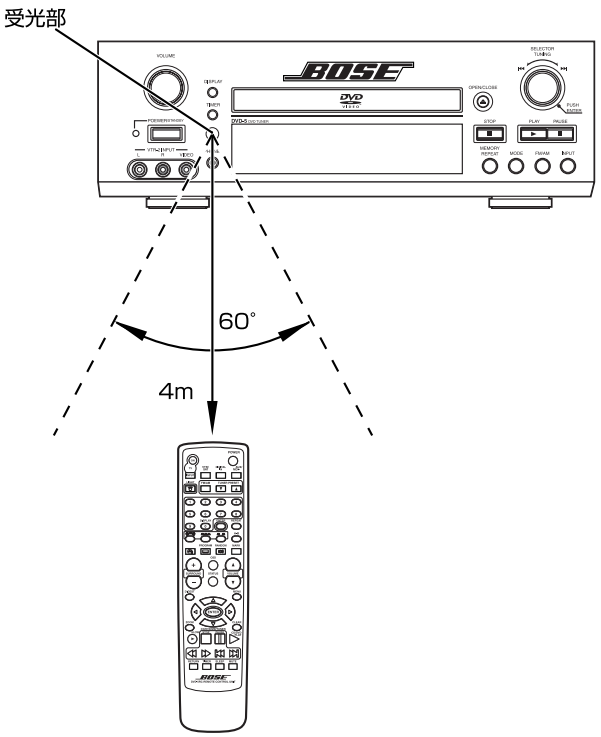
⚠ 使用上の注意

- **本機の受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。**
- **本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。**
- **リモコンと本機受光部の間に障害があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。**

⚠ 電池についてのご注意

- **乾電池の ⊕ と ⊖ の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。**
- **新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。**
- **乾電池は絶対に充電しないでください。**
- **長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。**
- **液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。**

◆リモコンの動作範囲◆



電池交換の時期は…

リモコンの電池が消耗するとリモコンの動作範囲が狭まってきて、効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたら、リモコンの電池を2本とも新しい電池に交換してください。

電源のON/OFFのしかた

⚠ 注意 **接続に間違いがないことを確認してから、まずアクースティマス用ACケーブルをACコンセントに差し込み、次にDVD-5本体の電源コードを差し込んでください。**

本体については22ページ、リモコンについては18ページの各部の名称を参照してください。

●電源の入れ方

DVD-5本体の場合

POWER/STANDBYキーあるいはPLAYキーを押すと電源が入ります。

リモコンの場合

POWERキーを押すと電源が入ります。
また、 VTR/SAT、DIGITAL IN、AUX/MD、FM/AMキーを押すことでも電源が入ります。

●電源の切り方

DVD-5本体の場合

電源が入っているとき、POWER/STANDBYキー押すとスタンバイになり、スタンバイインジケーター(赤)が点灯します。

リモコンの場合

電源が入っているとき、POWERキーを押すとスタンバイになり、スタンバイインジケーター(赤)が点灯します。

●オートパワーオフについて

本機は停止状態で約30分経過すると、自動的に本機の電源が切れてスタンバイ状態になる機能（オートパワーオフ）があります。この機能を使用するには、OSD画面にしてオートパワーオフを「入」にしてください（43ページ参照)。

音量調節のしかた

●全体の音量調節のしかた

※本機は電源をOFFしたときのレベルを記憶しています。極端に大きな音量で電源をを切ると、次回電源をONしたときに突然大きな音がしますので、ご注意ください。

DVD-5本体の場合

VOLUMEつまみを時計方向に回すと音量が上がり、反時計方向に回すと音量が下がります。本機は最後に聞いていた入力ソースそれぞれのボリュームレベルをメモリーしています。
入力を切り替えた時に入力ごとに音量が違う場合があります。

リモコンの場合

VOLUMEキーの ⊕ キーを押すと音量が上がり、
⊖キーを押すと音量が下がります。

●センタースピーカーの音量調節のしかた

1.リモコンの キーを押して、3スピーカーモードにします。

2.SURROUND(サラウンドボリューム) ⊕ キーを押すと音量が上がり、⊖ キーを押すと音量が下がります。

※初期値に戻すには キーを約3秒以上押してください。

●サラウンドスピーカーの音量調節のしかた

1.リモコンの キーを押して、5スピーカーモードにします。

2.SURROUND(サラウンドボリューム) ⊕ キーを押すと音量が上がり、⊖ キーを押すと音量が下がります。

※初期値に戻すには キーを約3秒以上押してください。

時刻の合わせ方

本体で合わせる場合

1.DISPLAYキーを3秒以上押してください。

2.マルチジョグダイヤルを回して“ 曜日 ”を選び、マルチジョグダイヤルを押して確定します。

3.マルチジョグダイヤルを押すと“ 時間 ”の設定になります。

4.マルチジョグダイヤルを回して“ 時間 ”を合わせ、マルチジョグダイヤルを押して確定します。

5.マルチジョグダイヤルを押すと“ 分 ”の設定になります。

6.マルチジョグダイヤルを回して“ 分 ”を合わせマルチジョグダイヤルを押して確定します。

※設定途中でDISPLAYキーを押すと、一つ前の設定項目に戻ります。

リモコンで合わせる場合

1.DISPLAY/0キーを3秒以上押してください。

2.カーソルキーの ▽ △ を使って“ 曜日 ”を合わせます。

3.数字キーを使って“ 時間 ”を直接入力しENTERキーで確定します。

たとえば

16時32分の場合

※カーソルキーの ▷ で合わせる項目を選んで ▽ △ キーで内容を選んでENTERキーで確定しても入力できます。

タイマーとスリープについて

●タイマーの設定の仕方

本体の電源がONのとき設定できます。

本体で設定する場合

1.TIMERキーを押した後、マルチジョグダイヤルを回して、タイマーON時に聞きたいソースを選択します。

2.マルチジョグダイヤルを押して確定します。

3.マルチジョグダイヤルを回して、毎日決まった時刻にON（DAILY）か特定の曜日の決まった時刻にONさせるかを選び、マルチジョグダイヤルを押して確定します。

4.マルチジョグダイヤルを回して“ 時間 ”を設定し、マルチジョグダイヤルを押して確定します。

5.マルチジョグダイヤルを回して“ 分 ”を設定し、マルチジョグダイヤルを押して確定します。

6. POWER/STANDBYキーを押して電源をOFFにするとタイマーがセットされます。

※タイマーを解除するには、電源が ONの時にTIMERキーを押して、マルチジョグダイヤルを回し“ TIMER OFF ”を選んで、マルチジョグダイヤルを押してください。

リモコンで合わせる場合

1.リモコンのTIMERキーを押して、カーソルキー ▽ △ でタイマーON時に鳴らしたいソースを選び、 ▷ キーを押します。

2. ▽ △ キーで、毎日決まった時刻にON（DAILY）か特定の曜日の決まった時刻にONさせるかを選びます。

3.数字キーを使って、時刻を入力しENTERキーで確定します。

4.POWER/STANDBYキーを押して電源をOFFにするとタイマーがセットされます。

5.タイマーを解除するには、TIMERキーを押して ▽ △ を使って“ TIMER OFF ”を表示させてENTERキーで確定します。

●スリープタイマーの設定

時間がたつと自動的に電源をOFFする機能です。

リモコンのSLEEPキーを押す度に

AUTO SLEEP→SLEEP 90 min→…（押す度に10分ずつ減少）→SLEEP OFF→AUTO SLEEP→（以後繰り返し ）…となります。

※AUTO SLEEPはディスクの再生が終了したら電源が切れるタイマーです。AUTO SLEEPはディスクのときしか表示されません。

残り時間を見るには

スリープタイマーを設定後にSLEEPキーを押すと、残り時間を表示します。ただし、AUTO SLEEP時は時間表示はできません。

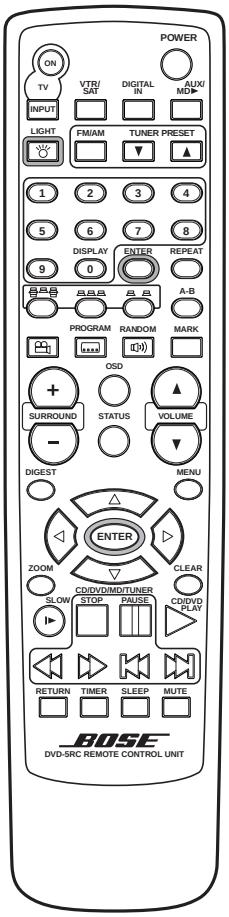
解除するには

AUTO SLEEPを解除するにはOPEN/CLOSEキーを押して、ディスクを取りだすと解除になります。通常SLEEPはSLEEPキーをSLEEP OFFになるまで押してください。

スピーカーモードについて

LS-PROシステムの場合、2本、3本、あるいは 5本のスピーカーモードで自由に音楽を聴くことができます。電源が入っていれば、音源のタイプに合わせてお好きなスピーカーモードに切り替えてお楽しみいただけます。
音源がサラウンド録音されていてもいなくても、SURROUNDモードで聴くことができます。たいていの音源（モノラル、ステレオ、あるいはサラウンド）を、3 あるいは 5スピーカーモードで聴くと、包み込まれるような音場でいながら、対話などのセリフを映像の中央に定位させることができます。

◆スピーカーモードの切り替え方◆



（5スピーカー）、 （3スピーカー）、あるいは （2スピーカー）の各モードはリモコンで切り替えます。
本機はソースごとにスピーカーモードを記憶していますので、電源が入った時は最後に聞いていたスピーカーモードになります。

※DVD-5本体のキーではスピーカーのモード切り替えはできません。

・演奏中は、どのスピーカーモード（5スピーカー、3スピーカー、2スピーカー）にも変えることができます。

●SURROUND ⊕／⊖（サラウンドの音量）キーについて

SURROUND キーは
・5スピーカーモードでは、サラウンドスピーカーの音量を上下させます。
・3スピーカーモードでは、センタースピーカーの音量を上下させます。

・5スピーカーのサラウンドの音量を初期設定値にもどすには キーを約3秒以上押してください。

・3スピーカーのサラウンドの音量を初期設定値にもどすには キーを約3秒以上押してください。

・2スピーカーモードの時に、SURROUND ⊕ キーを押すと、5スピーカーモードに変わり最後に聞いていたSURROUNDのモード（シミュレーテッド・サラウンドモードがONまたはOFFの状態）になります。シミュレーテッド・サラウンドについては下記参照。

●5スピーカーモード時

・5スピーカーモードを選択すると、音源がステレオやドルビープロロジック、ドルビーデジタルの場合はボーズデジタル5チャンネルでお楽しみいただけます。

モノラル音声のシミュレーテッド・サラウンドについて

5スピーカーモード時でも、入力信号がアナログ、デジタルにかかわらずモノラル音声の場合は、フロント側のスピーカーからしか音が出ません。5チャンネル全てから音を出してサラウンドモードをお楽しみになりたい場合は、 キーを1回押してください。表示部に“ MONO 5SP ON ”と表示され、音楽に包まれるようなサラウンド再生が楽しめます。また、シミュレーテッド・サラウンドは、3スピーカーモードでも、2スピーカーモードでも働きます。シミュレーテッド・サラウンドをOFFにする場合は、どのスピーカーモードの場合でも キーを押して表示部に“ MONO 5SP OFF ”と表示させてください。

●3スピーカーモード時

・フロント側のスピーカーから音を出して楽しめます。2スピーカーモード時よりも、歌手のボーカルやセリフがフロント左右のスピーカーの中央から聞こえます。

●2スピーカーモード時

・フロント左右のスピーカーからのみ音が出ます。通常のステレオシステムで音声を聞くのと同じになります。

フィルムEQについて

映画の音声はセリフの明瞭度を向上させるため低音の音量を下げて録音されています。映画館と同様の迫力と臨場感を再現するために、映画の音声を再生する場合は、通常の再生に比べて低音を強調して再生する必要があります。
LS-PROシステムには映画の音声を再生するのに最適な“ フィルムEQ ”を内蔵しています。この“ フィルムEQ ”は映画の音声を再生するときに低音を約10dB増幅して再生します。これにより映画本来の音声バランスになり、映画館と同様の迫力と臨場感を再現できます。
この“ フィルムEQ ”は好みや部屋の状況によって解除することもできます。“ フィルムEQ ”は本体のMODEキーを押してON/OFFします。
この“ フィルムEQ ”はAUX/MD、内蔵AM/FMチューナー、DVD以外のディスクを再生中は働きません。

DRC（ダイナミックレンジコンプレッション）について

映画の音声はごく小さな音から、衝突、爆発音といった極端に大きな音までいろいろな大きさの音声が含まれています。そのため、深夜や映画館のように大きな音を出せない場合は、大きな音に音量を合わせて再生すると、小さな音やセリフがよく聞こえないことが起きてしまいます。LS-PROシステムでは、小さな音で再生しても映画の全ての音を聞き易くするために、最大の音と最小の音の差を小さくするためのDRC（ダイナミックレンジコンプレッション）機能を装備しました。
LS-PROシステムのDRCはご使用になる音量に合わせて自動的に働きます。大きな音量でお使いになるときは、DRCの効きが弱まり、小さな音で再生するときはより効果を強めます。そのため、大きな音量でご使用になるときにわざわざOFFにしたり、ごく小音量時にDRCの効き具合を調整したりする必要はありません。

●DRCをON/OFFするには

・基本的にはON/OFFの必要はありませんが、お好みによりON/OFFすることができます。ON/OFFするには キーを3秒以上押すと変更できます。

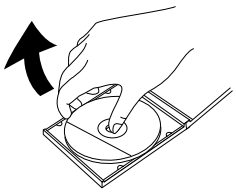
音源（ソース）	初期設定	設定の変更
SAT、VTR1、VTR2、DVD	ON	ON ⇨ OFF キーを3秒以上押す。
OPT1、OPT2、COAX	OFF	OFF ⇨ ON キーを3秒以上押す。

ディスクの取り扱いについて

◆結露現象について◆

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ(結露)、レーザーによるCDからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

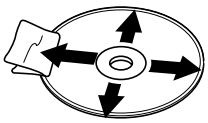
ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。



ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

ディスクの表面はいつもきれいに

CDの表面には最大約60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずCD専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。



※CDは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、CDの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

CD保管上の注意

CDはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

●直射日光の当たる場所。
●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
●車の中などの高温になる場所。
●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
●極端に寒い場所。
●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
●屋外や直接水のかかるところ。

ディスクの取り扱いについて

ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。
ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください（CDの演奏は片面だけです）。

七色に輝く面が表面です。レーベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、CDプレーヤーは、レーザー光線のスタイラスでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがってCDは従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

・レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。

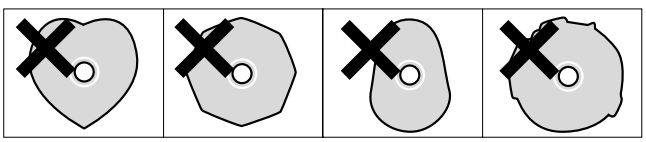
・再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。

・ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのままCDプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

・CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

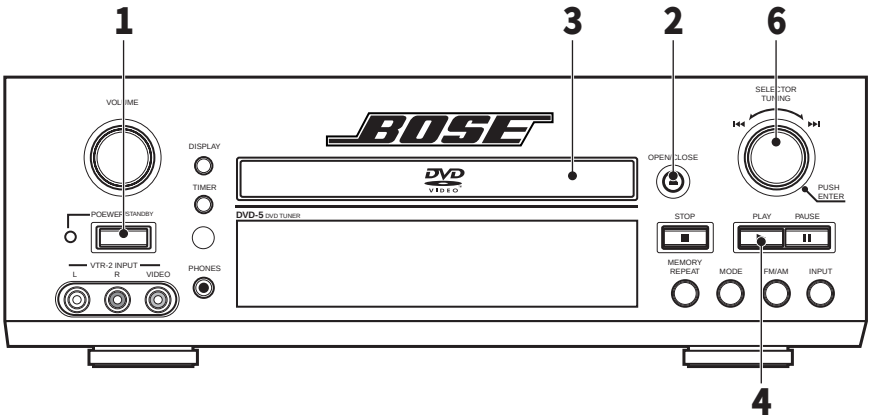
・市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。

・ハート型や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



⚠ 注意
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがや故障の原因となることがあります。

ディスクの再生



◆再生してみよう◆

再生する前に!
・テレビの電源を入れ、テレビの入力切替を「ビデオ」にします。

1. POWERキーを押します。
本体の電源が入ります。

2. OPEN/CLOSEキーを押します。

3. トレイにディスクを置きます。

4. PLAYキーを押します。
自動的にトレイが閉まり、再生が始まります。

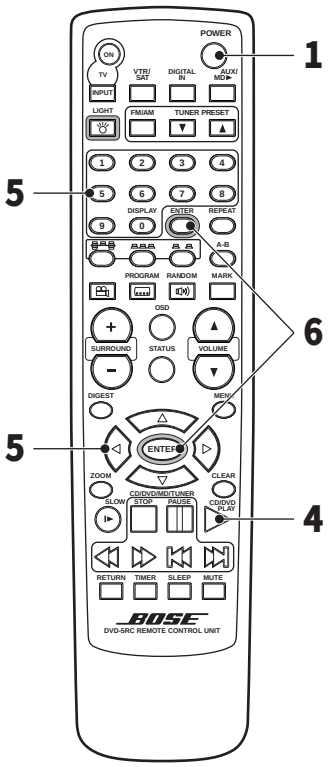
※OPEN/CLOSEキーを押してトレイを閉めても、自動的に再生が始まります。

“ DISC ERROR ” と表示されたら
一度POWERキーを押し、スタンバイモードにして再度、電源を入れ直してみてください。

メニュー画面が表示されたときは
インタラクティブなDVDなどの多くのものは、メニュー画面が表示されます。このような場合、手順**5、6**で見たい項目を選び、再生を始めてください。

※インタラクティブなDVDとは、例えば、複数のアングルやストーリーなどの収録がされたDVDソフトのことです。

5. カーソルキーまたは、数字キーで見たい項目を選びます。
※数字キーで選んだときは手順6は不要です。



6. ENTERキーを押します。
見たい項目が決定され、再生が始まります。
・ディスクによって異なりますがDVD再生中はMENUキーを押すとメニュー画面に戻すことができます。

再生が終了したときは
続けて再生しないときには、節電のため、POWERキーを押して本機の電源を切ってください。電源を切らなくても、停止状態で約30分経過すると、自動的に本機の電源が切れます（オートパワーオフを「入」にしてある場合、43ページ参照）。

◆再生を止めるには◆

再生中、本体またはリモコンのSTOPキーを押します。

RESUME（続き再生メモリー）機能について

本機は、再生中にSTOPキーを押すと、止めた位置を記憶します。RESUME（続き再生メモリー）機能が働いているときは、表示部のRESUMEインジケーターが点灯します。

・STOPキーを押した後PLAYキーを押すと、止めたところから再生が始まります。
・STOPキーを押した後トレイを開けるか、、もう一度STOPキーを押すと、RESUME（続き再生メモリー）機能は解除されます。

RESUME（続き再生メモリー）機能は、再生中、表示部に経過時間が表示されているディスクのみに働きます。

◆静止（一時停止）するには◆

再生中、本体またはリモコンのPAUSEキーを押します。

・PLAYキーを押すと、通常の再生に戻ります。
・音楽CDの場合は、さらにもう一度押すと再び再生を始めます。

◆早送り早戻しをするには◆

再生中、リモコンの ◁◁、▷▷ キーを押します。

◁◁：このキーを押す度に、早送りの速度が上がります。

▷▷：このキーを押す度に、早戻しの速度が上がります。

・PLAYキーを押すと、通常の再生に戻ります。

◆頭出しをするには◆

再生中、リモコンの ⏮、⏭ キーを押します。

⏮：このキーを押すと、現在再生中の曲の先頭へ移動します。もう一度押すと、一つ前の曲の先頭に移動します。

⏭：このキーを押すと、次の曲の先頭へ移動します。

◆コマ送り再生をするには（DVDビデオのみ）◆

静止中、本体またはリモコンのPAUSEキーを押します。
さらに、もう一度押すと、コマ送りを始めます。

・押すたびに1コマずつ再生します。
・PLAYキーを押すと、通常の再生に戻ります。

◆スロー再生するには（DVDビデオのみ）◆

ポーズまたは再生中、リモコンのSLOWキーを押します。

このキーを押すとスローモーション再生（順方向のみ）になります。

・キーを押すたびに再生速度が変わります。
・PLAYキーを押すと、通常の再生に戻ります。

◆DIGEST（ダイジェスト）機能について（DVDビデオのみ）◆

ディスクに収録されている内容を一目でチェックできるように、一画面に付き、各チャプターの最初の部分を9つ表示します。ディスクに収録されているチャプターが10以上ある場合は2ページ目以後に表示されます。
画面の9つのチャプターには、左上に番号が付けられます。リモコンの数字キーで番号と同じ数字を押すと、そのチャプターから再生することができます。

・DIGESTキーを押すと、ディスクの最初のチャプターから順に表示します。

※9画面表示のときにDIGESTキーを押すと、完全停止になります。

プレイモードについて

◆いろいろな再生◆

再生モードを切り替えて設定するには、完全に再生を停止させてから設定を行ってください。 RESUME（続き再生メモリー）やポーズ状態では設定できません。

プログラム再生（音楽CDディスクのとき）

1.完全停止中に、リモコンのPROGRAMキーを押して再生モードを選びます。

2.リモコンの数字キーを押してプログラムしたい曲番を入力します。

3.リモコンのENTERキーを押して確定します。

手順2～3の操作を繰り返して曲をプログラムします。

※**プログラム入力中、リモコンのSTOPキーを押すと、最後にプログラムした曲を消去することができます。**

※**プログラムを全消去するときは、停止中にリモコンのCLEARキーを押すと消去できます。**

4.プログラム入力が終わったら、本体のPLAYキーまたは、リモコンのCD/DVD PLAYキーを押すと再生を始めます。

5. プログラムモードで完全停止中に、PROGRAMキーを押すと、表示部に“ P-OFF ”と表示され、プログラム内容を記憶したまま通常再生モードになります。

6. プログラム内容を消去していない場合は、リモコンのPROGRAMキーを押すと再びプログラム再生モードになります。

※**再びプログラム再生モードにすると、プログラムの曲を追加することができます。手順2～3操作を繰り返して曲を追加します。**

プログラム消去の方法

・ソースを切り替える。・ディスクを取り出す。
・完全停止中にCLEARキーを押す。・電源を切る。

ランダム再生（音楽CDディスクのとき）

1.完全停止中に、リモコンのRANDOMキーを押してランダム再生モードを選びます。

2.本体PLAYキーまたは、リモコンのCD/DVD PLAYキーを押すと再生を始めます。

3.ランダム再生を止めるには、再生中にリモコンのRANDOMキーを2回押します。

※**ランダム再生は、繰り返し再生（リピート再生）と同時に選択することができます。**

音楽CDディスク再生時のリピート

●1曲リピート（REPEAT 1）

一曲だけを繰り返して再生します。

・リモコンのREPEATキーを押して表示部に“ REPEAT 1 ”を点灯させて、繰り返し再生したい曲の演奏をはじめます。

・STOPキーを押した後PLAYキーを押すと、止めたところから再生が始まります。

●全曲リピート（REPEAT ALL）

ディスクに収録されている曲を全曲繰り返して再生します。

・ディスク演奏中に、リモコンのREPEATキーを押して表示部に“ REPEAT ALL ”を点灯させます。

・解除するには、リモコンのREPEATキーを押して、表示部から“ REPEAT ALL ”を消灯させます。

●A-Bリピート（REPEAT A-B）

トラック内のあるポイント（A）からあるポイント（B）までを繰り返して再生します。

・トラック（ある１曲）を再生中に繰り返して再生したい部分の最初のところで、リモコンの A-B キーを押します（Aポイントの設定）。次に終わりの部分でリモコンのA-B キーを押します（Bポイントの設定）。

・解除するにはもう一度 A-B キーを押します。

DVDビデオディスク再生時のリピート

●チャプターリピート（REPEAT CHAPTER）

チャプターを繰り返して再生します。

・リモコンのREPEATキーを押して表示部に“ REPEAT CHAPTER ”を点灯させて、繰り返し再生したいチャプターの再生をはじめます。

・解除するには、リモコンのREPEATキーを押して、表示部から“ REPEAT CHAPTER ”を消灯させます。

●タイトルリピート（REPEAT TITLE）

タイトル内の全てのチャプターを繰り返して再生します。

・リモコンのREPEATキーを押して表示部に“ REPEAT TITLE ”を点灯させて、繰り返し再生したいタイトルの再生をはじめます。

・解除するには、リモコンのREPEATキーを押して、表示部か“ REPEAT TITLE ”を消灯させます。

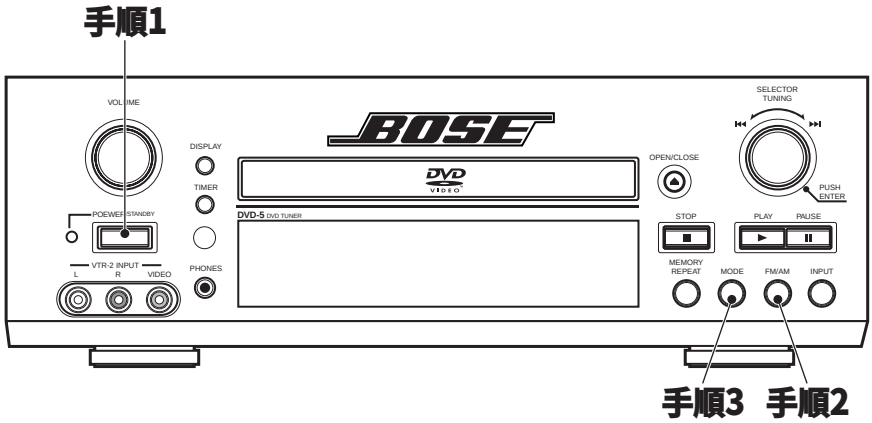
●A-Bリピート（REPEAT A-B)

チャプター内のあるポイント（A）からあるポイント（B）までを繰り返して再生します。

・チャプターを再生中に繰り返して再生したい部分の最初のところで、リモコンの A-B キーを押します（Aポイントの設定）。次に終わりの部分でリモコンのA-B キーを押します（Bポイントの設定）。

・解除するにはもう一度 A-B キーを押します。

ラジオの聞き方



◆ラジオの聞き方◆

手順1．POWERキーを押して本体の電源を入れます。

手順2．FM/AMキーを押して、チューナーモードに切り替えます。

このキーを押すだけでも電源を入れることができます。

手順3．MODEキーを押して選局方法を選びます。

●スキャンチューニングモード（AUTOインジケーター点灯）

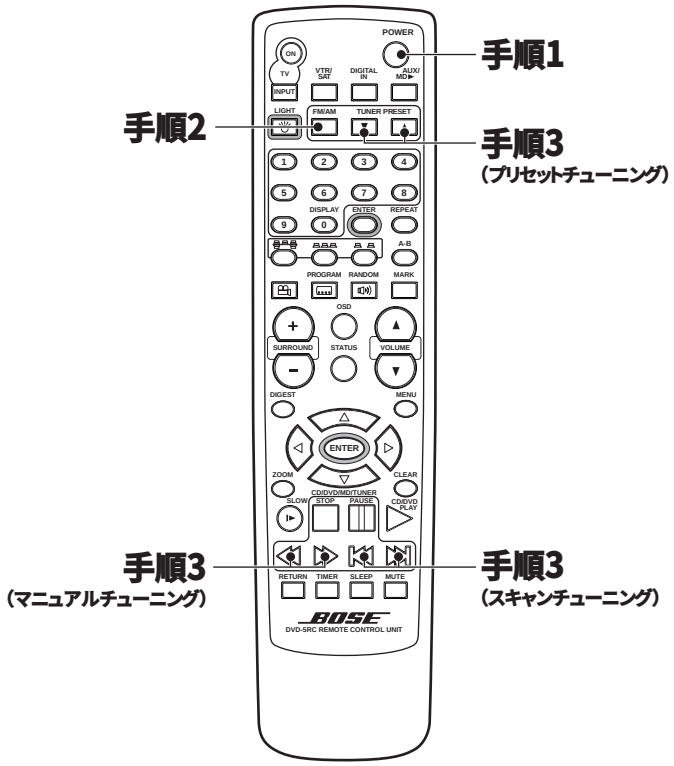
マルチジョグダイヤルを時計方向に回すと周波数を上げながら、反時計方向に回すと周波数を下げながら自動的に受信可能な放送局を探します。一局も受信できない場合は探しはじめた周波数で停止します。

●プリセットチューニングモード（MEMORYインジケーター点灯）

マルチジョグダイヤルを時計方向に回すと今聞いているバンド（FMまたはAM）でメモリーチャンネルをすすめ、反時計方向に回すとチャンネルを戻しながら登録してあるチャンネルを呼び出します。ただし、今聞いているバンドに一つもメモリーしてあるチャンネルが無い場合は、別のバンドのチャンネルを表示します。

もし、今聞いているバンドに一つもプリセットしてあるチャンネルがない場合は、別のバンドに移り、登録したあるチャンネルを呼び出します。

どちらのバンドにもプリセットされているチャンネルがない場合は、“ NO P.MEMORY ”と表示されます。



●マニュアルチューニングモード（FM放送局受信時にMONOインジケーター点灯）

スキャンチューニングで受信できない弱い電波の放送局を受信するときに、この選局方法を選びます。マルチジョグダイヤルを時計方向に回すと周波数が上がり、反時計方向に回すと周波数が下がります。お聞きになりたい放送局の周波数に合わせて下さい。

注意 **FM放送では、マニュアルチューニング時は自動的にノイズの少ないモノラルモードになります（強制モノラル）。**

◆放送局のプリセットの仕方◆

よく聞く放送局はあらかじめプリセットチャンネルにメモリーしておくと便利です。
放送局のプリセットは本機で行います。リモコンでは放送局のプリセットはできません。

※メモリーできるチャンネル数は、FMとAM合わせて30チャンネルまでです。それ以上メモリーしようとすると、" MEMORY FULL "と表示されメモリーできません。このような場合は、登録されているチャンネルを消去してメモリーチャンネルに空きを作って下さい。

●スキャンチューニング（38ページ参照）で放送局を受信してプリセットチャンネルにメモリーする。

1. スキャンチューニングモードで放送局を受信します。
2. MEMORY REPEATキーを一回押すと、バンドに関係なくプリセットメモリーの空きチャンネルの一番小さいチャンネルに自動的にメモリーされます。

●マニュアルチューニングで放送局を受信してプリセットチャンネルにメモリーする。

1. マニュアルチューニングモード（38ページ参照）で放送局を受信します。
2. MEMORY REPEATキーを一回押すと、プリセットメモリーの空きチャンネルの一番小さいチャンネルに自動的にメモリーされます。プリセットチューニングでこのチャンネルを呼び出した場合は、モノラル受信になります。

※FM放送では、マニュアルチューニング時は自動的にノイズの少ないモノラルモードになります。
一度マニュアルモードで受信してからMODEキーを押してスキャンチューニングモードに切り替えるとステレオで放送を聞くことができます（ステレオ放送の場合）。
ステレオで聞けるようにメモリーする場合は、マニュアルチューニングで放送局を選局してからMODEキーを押して、スキャンチューニングモードに変えてからMEMORY REPEATキーを押してチャンネルにメモリーしてください。

●登録チャンネルの消去の方法。

1. プリセットチューニングモード（38ページ参照）を選びます。
2. マルチジョグダイヤルを回して、消去したいチャンネルを選びます。
3. MEMORY REPEATキーを3秒以上押し続けると、メモリーが消去できます。

MP3ファイルの再生

CD-R/RWディスクにMP3形式の音声圧縮フォーマットで記録された音楽を再生することができます。

※使用するCD-R/RWの特性、記録状態により、再生できなかったり、再生時間の表示にならない場合があります。

1. ディスクトレーにMP3のデータの入ったディスクをセットします。
2. 本体PLAYキーもしくはリモコンのCD/DVD PLAYキーを押すと、ディスクトレーがローディングされ、テレビ画面にディスクの内容が表示されます。
3. テレビの画面を見ながら、カーソルキーとENTERキーで選曲してください。

・表示部に時間表示が出ているときは、リモコンの ◁◁、▷▷ キーで早送り、早戻しができます。
・リモコンの ⏮、⏭ キーで曲の飛び越し選曲ができます。
・リモコンのREPEATキーを押して、今再生中の曲の繰り返し再生、今再生中のフォルダ内の曲全部の繰り返し再生が選べます。リピート再生を解除するときは、REPEATキーをテレビの画面にREPEAT OFFの表示が出るまで押してください。

外部の機器を聴く

接続してある外部の機器が動作していることを確認してください。

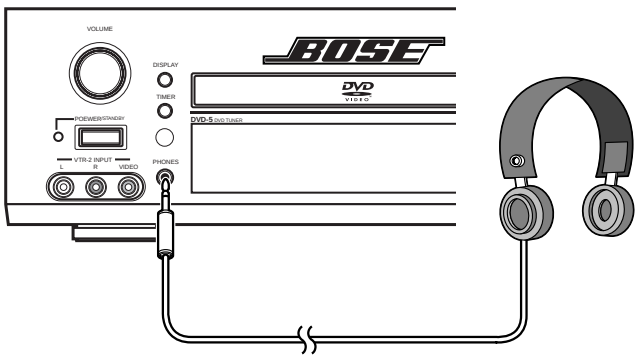
注：LS-PROシステムは、接続されている外部の機器のON/OFFはできません。

入力セレクターをお聴きになりたい機器の接続されている入力に合わせて外部の機器を再生してください。再生するプログラムに合わせて“ フィルムEQ ”、DRC（ダイナミックレンジコンプレッション、33ページ参照）を合わせてください。その際、プログラムが音楽ソースならば、“ フィルムEQ ”、DRCはOFFにすることをおすすめします。映画などのプログラムの場合はそれぞれONにすることをおすすめします。また、モノラル音声のプログラムならば、シミュレーテッド・サラウンド（32ページ参照）をONにすることをおすすめします。

※“ フィルムEQ ”、DRCについては33ページを参照、シミュレーテッド・サラウンド等については32ページを参照してください。本機の外部入力については16ページを参照してください。また、外部の機器それぞれの取扱説明書も参照してください。

ヘッドホンで楽しむとき

ヘッドホンで音楽を聴くには、DVD-5の左側のステレオミニヘッドホンジャックを使用します。このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。ヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音が止まります。また、スピーカーモード表示（26ページ参照）も消灯します。



注意 **ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意下さい。耳を刺激するような大音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。**

ステータスバー画面について

本機はDVDビデオやCD再生中に状態を画面上でチェック、変更できる便利なステータスバーを表示させることができます。

◆ステータスバーを表示させるためには◆

リモコンのSTATUSキーを押すと、画面上部にステータスバーが表示されます。

DVDビデオディスク再生中に表示されるステータスバーの内容

このステータスバーを使ってタイトルサーチ、チャプターサーチ、タイムサーチ、ブックマーク機能、アングル切り替え、サブタイトル切り替え、マルチサウンドトラック切り替えが行えます。

タイムサーチ
カーソルキーでタイムに移動します。数字キーを押して、ENTERキーで確定します。

たとえば

0:32:43の場面から再生する場合

3 ⇨ 2 ⇨ 4 ⇨ 3 ⇨ ENTER または ENTER

0:01:08の場面から再生する場合

1 ⇨ 0 ⇨ 8 ⇨ ENTER または ENTER

1:23:08の場面から再生する場合

1 ⇨ 2 ⇨ 3 ⇨ 0 ⇨ 8 ⇨ ENTER または ENTER

タイトルサーチ
カーソルキーでタイトルに移動します。数字キーを押して、ENTERキーで確定します。

チャプターナンバーを変更する場合
カーソルキーでタイトルに移動します。数字キーを押して、ENTERキーで確定します。

アングル　サブタイトル　マルチサウンドトラック

ブックマークの登録、呼び出し、削除について

◆マークの登録のしかた
カーソルキーで の — に移動して、マークしたい場面でENTERキーを押します。

◆マークした場所からスタートするには
2つのマークのうち、見たいシーンのマークの方をカーソルキーで選び、ENTERキーを押します。

◆マークの削除のしかた
削除したいマークをカーソルキーで選び、CLEARキーを押します。

※ディスクによっては、ブックマークが使えなものがあります。

アングル、サブタイトル、マルチサウンドトラックの変更のしかた

1.それぞれのマークにカーソルキー移動します。

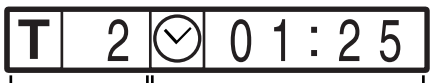
2.ENTERキーを押す度に変更ができます。

※ディスクによっては変更できないものもあります。

ブックマークとは

本にしおりを挟むように、DVDビデオディスクにブックマークを付けることで、いつでもそのブックマークの所から再生を始められるようにする機能です。本機は、ブックマークを一枚のディスクに付き2ヶ所までで5枚分記憶できます。

音楽CDの内容



トラック
曲番を表示します。
数字キーで再生したいトラックナンバーを押してENTERキーで確定します。

タイム
経過時間を表示します。
数字キーで再生を始めたい時間を入力してENTERキーで確定します。

システム設定について

設定画面を使って行う設定を説明します。

もとの画面に戻るには

- **OSDキーを押す。**
- **設定画面の「戻る」にカーソルで移動してENTERキーを押す。**
- **RETURNキーを押す。**
- **本体PLAYキーまたはリモコンのCD/DVD PLAYキーを押す。**
- **設定項目を選ぶときはリモコンの ◁、▷ キーで移動して △、▽ キーで内容を選択し、ENTERキーで確定します。**

TV 画面設定

接続するテレビのタイプに合わせて画面サイズを選びます。

4:3 通常のテレビに接続する場合に選びます。

レターボックス
全画面表示。 上下に黒い帯がでたワイド映像。

パン・スキャン
ワイド画面の両端がカットされた映像。

16:9 ワイドテレビに接続する場合に選びます。

ワイドスクリーン
全画面表示。

デジタル出力

再生するディスクによって出力音声信号の記録方式が異なります。 接続するオーディオシステムに合わせて、デジタルの音声信号の出力を設定します。

◆ PCM 96kHz

デジタル出力端子から出力される信号のサンプリング周波数を選択します。

※ PCM96kHz サンプリングに対応している外部のアンプにデジタル出力で接続する場合以外は48kHz を選んでください。

◆ DTS

DTS 音声で収録されているディスクを再生するときに有効です。

※外部アンプで DTS 音声に対応している機器を使用するときにビットストリームを選択してください。外部に AV アンプ等をつながない場合は切にしてください。

◆ DOLBY DIGITAL

ドルビーデジタル (AC-3) で収録されているディスクを再生するとき有効です。
ドルビーデジタル (AC-3) 対応のデコーダまたは内蔵 AV アンプにデジタル出力で接続する場合は、ビットストリームを選択してください。 PCM を選択するとダウンミックスされた 2CH の PCM 信号でデジタル出力より出力します。

視聴規制

国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限するという DVD の機能の一つです。制限の仕方は DVD によって異なり、ディスクによっては子供に見せたくないシーンをカットしたり、全く再生できなくする、別の場面に差し替えるなどするものがあります。 本機では、子供がレベル設定を変えることのないように、パスワードで設定を保護することができます。

◆レベルを設定するとき

※はじめてレベルを設定する場合、ロックを解除するためのパスワードは “ 1 2 3 4 ” を入力してください。

1. 「1 ～ 9」 のレベルを数字キーを使って入力します。
   レベル 1： 最大規制
   レベル 8： 最小規制
   レベル 9： 規制のない状態
2. 次にパスワードを入力します。 パスワードは 「0 ～ 9」 の数字を組み合わせて 1 ～ 4 文字以内で設定できます。
   入力が終わったら ENTER キーを押してパスワードを確定します。 閉まった鍵マークが表示されます。
   ※パスワードは、一度設定すると表示されません。 忘れないようにメモをしておくことをおすすめします。

・規制レベルは、ディスクによって異なります。 ディスクの説明書で内容を確かめてレベルの設定を行ってください。

TV 方式選択

◆オート
テレビ方式を自動的に選択します。

◆ NTSC
日本で採用されている標準テレビ方式。

OSD アイコン

◆オート
画面の上部に STOP、PLAY、RESUME といった情報を表示します。

◆切
STOP、PLAY、RESUME といった表示を表示しないようになります。

オートパワーオフ

◆切
自動的にスタンバイモードになりません。

◆入
停止状態で約 30 分経過すると自動的にスタンバイモードになり、電力消費を減らします。

戻る
もとの画面に戻ります。

初期設定
視聴規制以外の設定を初期値に戻します。

◆レベル設定を解除するとき

1. カーソルキーを操作してパスワードを選びます。 数字キーで、前回入力したパスワードを入力してください。

2.ENTER キーを押して確定します。 ロックが解除され、開いた鍵マークになります。

※パスワードの入力を間違えると 「Error」 が表示されます。 再度入力をやり直してください。

◆パスワード・視聴規制レベルを変更するとき
現在の設定を解除して、再度視聴規制レベル・パスワードを設定します。

◆パスワードを忘れてしまったとき
パスワードのところに “ ２ ５ ８ ０ ” と入力します。 この数字を入力するとシステム設定の内容が初期化されます。 パスワードに “ １ ２ ３ ４ ” を入力するとカギが開き視聴規制の設定ができるようになります。

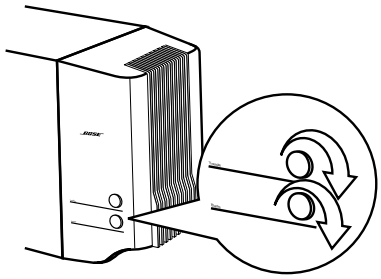
LS-PROシステムの音響調整

◆テストCDの使い方◆

付属のテストCDを使って結線のチェックとフロント側とサラウンド側スピーカーの音量のバランス調整を行います。
テストCDを再生するとチェックや調整の方法が聞こえてきます。指示に従って作業を行ってください。

◆システムの微調整◆

アクースティマスのアンプ部には、ボーズ社の特許技術P.A.P.回路を搭載し、どんな音量の時でも自然な音のバランスが得られます。さらにリスニングルームの音響特性に合わせて高域と低域を調整するためのルームアコースティックコンペンセーターも装備しています。



LS-PROシステムのルームアコースティックコンペンセーターは、アクースティマスにあります。この調整つまみによって、トレブル（高域）とバス（低域）を調節することができます。通常の設定では、各つまみの位置は、12時の位置になっています。また、このつまみは、センタークリックがついていますので、ちょうど中央の位置にくるとカチッという感覚が得られるようになっています。つまみを時計の針の回転方向に回すと、高域（TREBLE）あるいは低域（BASS）の量が増加し、反対に回すと減少します。

◆室内音響に合わせて調整◆

部屋の音響効果（音質）は、スピーカーシステムの全体的な音質に影響を与えることがあります。ルームアコースティックコンペンセーター機能を上手に使って、よりよい音響効果が得られるように調整してください。

●高域成分の調整

装飾家具、敷き詰めタイプのカーペット、重量のあるカーテンのようなサウンドを吸収する家具などを備えた部屋では、システムの高域成分が低減することがあります。スピーカーを柔らかい素材の家具から離すと、高域の量が増加します。
また、トレブル（TREBLE）つまみを時計回りの方向に回して、高域成分を増やすこともできます。
また、床や壁がむき出しであるなど、音を吸収する家具などがあまりにも少なすぎる部屋では、高域成分が多くなります。その場合は、トレブル（TREBLE）つまみを反時計回りに回すと、高域を減少させることができます。

●低域成分の調整

バス（BASS）つまみを反時計回りに回すことによって、低域成分を減少させることができます。低域成分を増やすには、バス（BASS）つまみを時計回りの方向に回してください。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　応
システムが全く機能しない	• AC ケーブルが DVD-5 に確実に差し込まれており、アクースティマスの AC ケーブルがアクースティマスに確実に差し込まれており、各 AC プラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認する。 • 音源の選択が行われていることを確認する。
音声が全く出ない	• DVD-5・アクースティマス接続ケーブルが DVD-5 の SIGNAL 出力端子に接続されており、アクースティマスコントロール信号ケーブルが DVD-5 にしっかり接続されていることを確認する。 また、DIN コネクターがアクースティマスのジャックにしっかりと差し込まれていることを確認する。 • DVD-5 を AC プラグをコンセントから抜いて、約 1 分以上放置して、もう一度電源を入れ直してみる。 • 外部の機器との接続をチェックする。 希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認する。 • デジタル入力用ケーブルにデジタル信号出力が接続されているか確認する。 • スピーカーとの接続をチェックする。 • ディスクは、DVD-5 に正しくセットされていることを確認する。 • ボリュームを上げる。 • ミュートがかかっている場合は、リモコンの MUTE キーを押しミュートを解除する。 • ヘッドホンプラグを DVD-5 から抜く。
センタースピーカーから音声が出ない	• センタースピーカー用ケーブルが確実に接続されていることを確認する。 • 3 スピーカーモードあるいは、5 スピーカーモードを選択する。
センタースピーカーの音量が大きすぎる	• 3 スピーカーモードで SURROUND ㊀ キーを押す。 • 3 秒以上、 3 スピーカーモードキーを押して、ボリューム設定を初期設定に戻す。
サラウンドスピーカーから音声が出ない	• 5 スピーカーモードを選択する。 • SURROUND ㊉ キーを押す。 • ビデオ音源がステレオであり、サラウンド録音されており、使用している機器（テレビ、ビデオデッキ、LD、DVD）がステレオであることを確認する。
サラウンドスピーカーの音量が大きすぎる	• 5 スピーカーモードの場合、SURROUND ㊀ キーを押す。 • 左右のフロントスピーカーがフロント・スピーカー・ジャックに接続されており、左右のサラウンドスピーカーが、サラウンド・スピーカー・ジャックに正しく接続されていることを確認する。 • 3 秒以上、 5 スピーカーモードキーを押して、ボリューム設定を初期設定に戻す。
リモコンが正しく働かない、あるいはまったく動かない	• 電池装着および、その極性（㊉と㊀）をチェックする。 • リモコンを DVD-5 の受光部に近づけて操作する。
ディスクが演奏できない	• 表示部のプレイ ▶ 記号が点灯しているかチェックする。 • 正しくディスクが DVD-5 にセットされているかを確認する。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。 別のディスクを使ってみる。 • レーザーピックアップあるいはディスクに塵やゴミが付いている可能性がある。 市販のクリーニングキットを使ってみる。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしている。

問　　題	対　　応
ラジオが動作しない	• アンテナが正しく接続されていることを確認する。 • アンテナの位置を調節して、受信状態を改善する。 • 信号が弱い地域の可能性がある。 • AM アンテナを本機からもっと離してみる。 • FM の場合、テレビのアンテナ信号を分配器を使って分配してみる。
FM サウンドが歪んでいる	• アンテナの位置や向きを調節してみる。
外部機器からの音声が出ない	• 入力切換で正しく外部の機器を選んでいるかチェックする。 • 接続をチェックする。 • 外部機器の取扱説明書を参照する。
VTR 1/2、SAT に接続した外部機器からの音声の低音が大きすぎる	• “ フイルム EQ ” がかかっていないかを確認し、かかっているようであれば解除する（33 ページ参照）。
映像がでない	• テレビの電源が入っているか確認する。 • DVD-5 の電源が入っているか確認する。 • DVD-5 のコンポジット映像出力がテレビに確実に接続されているか確認する。 • テレビ側の入力切替が適正ポジションであるか確認する。 • Y（緑）、C_B（青）、C_R（赤）の 3 本のコンポーネント出力は、3 本とも順番を間違えずにテレビ側に正しく接続されているか確認する。 • テレビ側の入力切替をコンポーネント入力に切り替える。 • テレビ側の映像入力端子に接続されているか確認する。 • テレビ側の S 端子（映像入力端子）に接続されているか確認する。
再生画像がでない、乱れる（DVD 画像）	• ディスクが、DVD-5 に正しくセットされていることを確認する。 • DVD 以外のディスクが入っていないか確認する。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。 別のディスクを使ってみる。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしている。 **※本機が再生できるソフトは、リージョンコード（発売地域割当コード）が 2 のソフトです。** • DVD の映像ケーブルが直接テレビにつながれていることをチェックする。 **※途中に別の機器をつなぐと映像が正しくでません。**
再生画像がでない、乱れる（ビデオ画像）	• ビデオ側の電源が入っているか確認する。 • ビデオテープが正しく挿入されているか確認する。 • ビデオの映像出力ケーブル（黄色）が、本機の映像入力端子に正しく接続されているか確認する。 • ビデオケーブルが不良の場合は、他のケーブルと交換する。
音声が全く出ない	• 外部の AV アンプとスピーカーシステムを使用しないで dts で録音されている DVD ビデオを再生しているとき、システム設定のデジタル出力で dts の項目が 「ビットストリーム」 になっていると音声が全く聞こえなくなります。 このような場合は、リモコンの OSD キーを押してシステム設定画面を呼び出し、デジタル出力の項目の dts を 「切」 にしてから電源を一度切って、再び電源を入れ直してください（42 ページ参照）。

仕　様

〈 総合 〉

方　　式	アクースティマス

〈 サテライト・スピーカー（防磁型）〉

ユニット構成	60mmドライバー×２（1本）
低磁束漏洩	キャンセリング・マグネット方式、 シールド方式併用
外形寸法	78（W）×157（H）×104（D）mm
質　　量	1.1kg（1本）

〈 アクースティマス（非防磁型）〉

ユニット構成	130mmドライバー×２
外形寸法	590（W）×358（H）×192（D）mm
質　　量	14kg

内蔵アンプ

フロント定格出力	35W×3（L/C/R）
サラウンド定格出力	35W×2（SL/SR）
ベース定格出力	70W

〈 AVセンター 〉

消費電力	21W（動作時）/3W（スタンバイ時）
外形寸法	285（W）×90（H）×280（D）mm
質　　量	3.4kg

DVD/CDプレーヤー部

再生周波数帯域	20Hz～20kHz（±0.5dB）
ダイナミックレンジ	70dB以上
S　N　比	105dB以上

チューナー部

FM受信周波数 /チャンネルステップ	76.0～90.0MHz/100kHz
FMアンテナ入力	75Ω
AM受信周波数 /チャンネルステップ	522～1629kHz/9kH

プリアンプ部

音声入力	アナログ	VTR1、VTR2、SAT、AUX/MD
	デジタル	同軸×1、光×2
音声出力	アナログ	VTR、SIGNAL、REC
	デジタル	同軸×1、光×1
映像入力		VTR1（コンポジット×1、S×1） VTR2（コンポジット×1） SAT（コンポジット×1、S×1）
映像出力		VTR（コンポジット×1、S×1） MONITOR（コンポジット×1、S×1、 コンポーネント×1）
入力感度		300mV
出力インピーダンス		300Ω（SIGNAL OUT）

〈リモートコントローラー 〉

方　　式	赤外線リモコン
外形寸法	200×50mm
質　　量	101g（電池含まず）

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボーズサービスセンター事業部 ☎ **045-979-0821**
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社、インフォメーションセンター ☎ **03-5489-0955**
までご連絡ください。

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社
http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。